

平成 24 年度決算付属資料

I 主要な施策の成果に関する説明書

II 基金の運用状況を示す書類

武蔵野市

I 平成 24 年度主要な施策の成果に関する説明書

地方自治法第 233 条第 5 項の規定に基づき、平成 24 年度における主要な施策の成果に関する説明書を提出します。

武蔵野市長 邑上守正

平成 24 年度は、第五期長期計画の初年度として、「自治と連携を育み、新しい都市像を開く予算」と位置付け、市民とともに着実に事業を進めてまいりました。

未曾有の大災害となった東日本大震災の経験を踏まえて、市民が安全で、安心して暮らせるまちづくりを進めてまいりました。放射線による影響への対応、確実に早く情報を伝達するシステムの構築や備蓄品の充実を図るとともに、帰宅困難者対策も視野に入れた駅前における防災訓練も実施し、多くの市民に参加をいただきました。また、大震災の被災地の一刻も早い復旧・復興のために職員を派遣しており、現在も継続しています。

平成 25 年 2 月に発生しました、吉祥寺での痛ましい殺傷事件に対して、防犯パトロールなどを実施し、市民の安全・安心の確保に取り組みました。25 年度においては、商店街の防犯カメラの設置に対して支援を行い、防犯力の充実を図っています。今後も防災・減災対策の推進、24 時間パトロール体制の強化を進め、安全安心なまちづくりを築いてまいります。

さて、平成 24 年度施政方針において掲げました、重点施策につきまして申し上げます。

地域リハビリテーションの推進につきましては、地域リハビリテーション推進協議会及び在宅支援連絡会の設置により関係機関との連携を強化したほか、心のバリアフリー事業、高齢者見守り支援事業、認知症高齢者対策事業などを実施しました。高齢者や障がい者が、住み慣れた地域でその人らしい生活ができる環境づくりを進めるとともに、家族介護者の負担の軽減にも繋げることができたと考えます。

子育てネットワークの多層化につきましては、子育て支援事業を進め、新しい北町保育園の完成や泉幼稚園跡地利用施設「すくすく泉」の建設事業に着手しました。境こども園については、業者の自己破産により一時的に建設が中断しましたが、新たな業者により建設事業を再開し、平成 25 年 12 月にオープン予定です。平成 25 年 3 月末における保育の定員は昨年度に比べ 71 人増加しており、境こども園の完成によりさらに 61 人増加します。また、緊急待機児童対策事業を展開し、子どもと子育て家庭への支援を進めており、今後も対策の充実に努めてまいります。

情報収集・提供機能の強化では、ホームページの改善を行い、市政情報の提供の向上を図るとともに、タウンミーティング等を通して、市民の皆様から様々なご意見やご要望をお聴きしました。また、地域コミュニティや市民自治の在り方を市民とともに意見を出し合い、共有する機会として、無作為抽出による市民ワークショップやアンケートを実施し、幅広いご意見をいただきました。こうした市民の声を市政へ反映させていくとともに、平成 25 年度に開催している「これからの地域コミュニティ検討委員会」における検討資料として活かしてまいります。

市民施設のネットワークの再編につきましては、公共施設におけるサービスの質を維持し提供するとともに、公共施設が時代のニーズに応え、新たな都市文化を創造する場となるために、今後の在り方について検討を行い、平成 25 年 3 月に「武蔵野市公共施設再編に関する基本的な考え方」をまとめました。また、公共施設の機能維持及び長寿命化を図る劣化保全整備や安全、福祉、環境機能等の向上のための改良保全整備工事を実施いたしました。

新クリーンセンターの建設と周辺まちづくりの推進では、建設地の近隣住民の皆様のご理解をいただき、建設準備が着実に進んでおり、平成 25 年度には契約に至ることができました。また、

最終処分場を持たない市として、集団回収事業、剪定枝葉資源化事業などを行い、さらなるごみ減量への取り組みを行いました。

上下水道の再整備につきましては、上水道では災害時にも安全でおいしい水の安定供給を行うために配水管網整備を進めました。下水道では、善福寺川流域の水環境等の向上を図るための合流式下水道改善施設の整備を進め、また大型の雨水貯留施設の整備や小学校における雨水貯留浸透施設の設置などを行い、大雨による浸水被害の軽減を図りました。

三駅圏ごとのまちづくりの推進のうち吉祥寺駅周辺地区につきましては、吉祥寺駅の南北自由通路の整備に着手したほか、北口駅前広場の整備プラン（案）の策定や、吉祥寺東部地区におけるまちづくりの検討を行いました。これからも回遊性に富んだ、活力のある吉祥寺のまちづくりに取り組んでまいります。武蔵境駅周辺地区では、鉄道連続立体交差事業が着実に進んでおり、25年度末に完成予定となっています。また、武鉄中付第1号線及び第2号線の電線共同溝や街路築造整備工事も実施しました。さらに、武蔵境駅舎(北側)連続施設の新築工事にも着手しました。これからも南北一体となったにぎわいのある武蔵境のまちづくりを進めてまいります。三鷹駅周辺地区におきましては、都市計画道路7・6・1号線（御殿山通り）の用地買収を行ったほか、三鷹駅北口のまちづくり構想では、市民や商工業者と協働し「三鷹駅北口のまちづくりを考える意見交換会」を開催しました。

平成24年度の景気動向は、年末にかけて世界経済の減速等により経済の底割れ懸念が生じていましたが、年明けには政府による「緊急経済対策」が策定され、この政策効果と世界経済の持ち直しが重なったことにより、回復の兆しがみえはじめました。内閣府の平成25年10月の月例経済報告では、景気は緩やかに回復しつつあるとしています。

武蔵野市の平成24年度市税は、個人市民税は増収となるものの、固定資産税は評価替えによる減収となっており、今後、大幅に増加する要因は当面見当たりません。一方で、地方分権改革に伴い、予防接種や妊婦健診の例にみられるように、補助金の廃止や一括交付金化が進められており、市税等を財源とする事業が増加しています。こうした中であって、世代間の負担の公平性や後年度の財政負担等に配慮した市債の活用、過去の市民のみなさんの蓄えである基金の取り崩しなどにより必要な財源を確保し、適正な財政運営に努めてまいりました。以下、平成24年度の歳入歳出決算の概要を申し上げます。

歳入決算額は588億1,811万5千円、前年度比13億17万7千円、2.2%の減となりました。評価替えによる固定資産税・都市計画税の減、景気の影響による法人市民税の減などにより、市税全体では3億2,872万5千円、0.9%の減となっています。

歳出決算額は557億8,501万4千円、前年度比11億8,581万2千円、2.1%の減となりました。主な増減としましては、障害者自立支援給付等事業費や生活保護費などの民生費の増、武蔵境駅周辺の整備工事などの土木費の増があるものの、小中学校の空気調和設備工事が終了したことによる教育費の減、クリーンセンター改修工事の減による衛生費の減などにより歳出全体では減となっています。

平成24年度の歳入歳出差引額は、30億3310万1千円、次年度への繰越財源8,325万円を除

いた実質収支額は 29 億 4,985 万 1 千円、前年度比 9,231 万円、3.0%の減となりました。

以下、平成 24 年度の主要な施策の成果について申し上げます。

I 健康・福祉

(1) 支え合いの気持ちをつむぐ

災害時要援護者対策事業につきましては、市内全 13 地区のうち、5 地区で支援者探しを行い、8 地区で更新作業（民生委員・児童委員個別訪問）を行いました。また、市総合防災訓練における検証や地域の実情に応じた安否確認訓練等を行い、事業実施体制の強化を図りました。

市内 7 か所にあるテンミリオンハウスでは、ミニデイサービスや緊急ショートステイなど、地域のニーズに応じた特色ある事業を展開しました。閉じこもり防止、趣味活動や仲間づくりによる高齢者や乳幼児親子の交流が図られました。

心のバリアフリー事業では、障がいのある方が地域生活を営むための支援に関する知識を学び、また、障がいに対しての理解を促す講習会を地域住民等に実施し、延べ 797 の方が受講しました。

(2) 誰もが地域で安心して暮らしてつづけられる仕組みづくりの推進

地域リハビリテーション推進事業では、全ての市民が住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるよう、まちづくりを進めています。様々な機関との連携を進めるとともに、ケアマネジャーを対象とした医療連携研修や介護保険等事業所を対象としたスキルアップ・定着支援のための研修等を実施しました。

認知症高齢者支援事業は、相談事業の充実、普及啓発の推進、在宅生活支援の 3 つを柱に事業を行っています。認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法について広く普及するため、啓発活動や相談事業を実施したほか、認知症高齢者及び家族への支援として、ヘルパーを派遣し、869 万円支出しました。

家族介護支援事業では、在宅での介護を支援するため、介護家族の交流・情報交換の機会の提供、介護技術講座、家族介護用品（おむつ）の支給等を実施し、家族介護者の負担軽減につながりました。

(3) 誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進

食育講演会の実施事業につきましては、食育をテーマにした講演会や展示会を行い、家庭での食の大切さなどについて、参加者の意識の向上を図りました。

妊婦健康診査について、超音波検査の公費助成の年齢要件を撤廃し、全ての妊婦が受診できるよう拡充を行った結果、受診者数が約 3 倍に増加しました。この経費として、8,146 万円を支出しました。

がん検診受診率向上事業では、がん検診についての意識調査を実施し、収集したデータをもとに、効果的な勧奨方法の検討を行いました。

市民こころの健康支援事業では、相談支援や出前講座を実施し、315 万円を支出しました。

(4) 誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり

障害者就労支援センターあいの運営では、職業相談、就労準備支援など総合的な就労支援を実施し、新規就労者は昨年度より 5 人増え、32 人となりました。また、ハローワーク、就労支援事業所、企業等とのネットワークを活用して情報の共有化を推進し、これらの経費として 3,502 万円を支出しました。

引きこもりサポート事業では、当事者や家族に対して相談事業やセミナー、講演会を実施し、501 万円を支出しました。

(5) 住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備

介護保険を利用する低所得者に対し、訪問介護サービス利用料 10%のうち 5%分の助成を行い、また、通所サービス利用時にかかる食費のうち一食あたり 200 円の助成を実施し、経済的な負担からのサービス抑制を軽減いたしました。

グループホーム等給付事業では、住み慣れた地域での生活を継続を支援するため、グループホーム新設に向けての開設支援、家賃助成等を行い、1 億 9,088 万円を支出しました。

II 子ども・教育

(1) 子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援

子ども家庭支援センター事業では、子どもとその家庭に対する相談事業、産前・産後支援ヘルパー事業等を実施しました。子育て支援ネットワークの中核機関として各機関との連携を進め、子育てに不安を持つ家庭を支援しました。

子育て支援事業については、地域で子育てを支え、子育て家庭の孤立を防ぐため「子育てステーション制度」のモデル事業、親支援講座や子育てひろばボランティア講座等を実施しました。

私立幼稚園等助成事業では、私立幼稚園及び私立幼稚園等園児保護者に対して補助や助成を行い、負担の軽減、幼児教育の振興を図りました。

緊急待機児童対策として、サンヴァリエ桜堤内の賃貸住宅を活用し、グループ保育室「どんぐり」を平成 24 年 4 月に開設し、定員 10 人の枠を確保しました。この経費として 3,981 万円を支出しました。

境こども園の開設に向けて、建設工事及び職員体制整備の経費について、(公財)武蔵野市子ども協会に対し補助を行いました。同園は工事が中断したため、平成 25 年 4 月からは代替施設において長時間保育 21 人、短時間保育 27 人、合計 48 人で保育を開始しました。これらの経費として 1 億 120 万円を支出しました。

北町保育園建替事業では、子ども協会に対し建替事業費の補助を行い、2 億 618 万円を支出しました。新園舎は、平成 25 年 3 月に竣工し、定員を 32 人増やし保育を実施しました。

保育の質向上の取組みとして、保育園アドバイザー等の配置、保育相談員の巡回指導の充実等を行いました。武蔵野市保育のガイドラインに沿って、ガイドライン委員会保育部会を立ち上げ、認可保育園の質の向上を図っております。

(2) 地域社会全体の連携による子ども・子育て支援の充実

総合的な幼児期の教育の振興を図るため、幼児教育振興研究委員会を設置し、学識経験者や私立幼稚園長等と連携・協働し、幼児期の教育への市の関与の在り方などについて検討しました。

「子どもを守る家」「自転車防犯帯」協力員の拡大及び活動の意義・目的の再認識と情報提供を行うとともに、子どもが自ら身を守ることの意識付けを目的とした「CAPワークショップ」を実施し、子ども自身及び保護者の意識の向上が図られました。

(3) 青少年の成長・自立への支援

むさしのジャンボリー事業は、武蔵野市青少年問題協議会地区委員会との共催事業として、2泊3日のキャンプを11回実施し、1,191万円を支出しました。参加した小学生の自立心や創造性、自然への興味と理解などが育まれる事業となっています。

ハバロフスク市青少年交流事業では、ハバロフスク市へ12～18歳の青少年20人の交流団を派遣し、異国の地で異なった環境下でのキャンプとホームステイを通し、友情を深め異文化に触れる機会となっています。

学童クラブ事業では、地域子ども館 あそべえとの連携を進めるとともに、土曜日開所の試行を引き続き行い、1億8,290万円を支出しました。

(4) 子ども・子育て家庭を支援する体制・施設の整備

泉幼稚園跡地に子育てひろば機能、グループ保育機能、一時保育サービス機能を地域の力で展開する、地域参加型の子育て支援施設「すくすく泉」を建設いたします。平成24年度は基本・実施設計事業者を選定し、平成26年7月の開設を目指して準備を進めました。

プレこども園事業では、桜堤児童館において、境幼稚園の教育の特色を引き継ぐ「境こども園さくら」を運営し、3,476万円を支出しました。

(5) 次代を担う力をはぐくむ学校教育

教育相談事業につきましては、教育支援センター、学校、子ども家庭支援センター等関係機関が連携を強化し、いじめ・不登校等に対する相談・支援を行いました。また、東京都「学校と家庭の連携推進事業」の実施校を1校から3校に拡大し、不登校傾向にある児童・生徒の支援を行いました。これらの経費として、7,349万円を支出しました。

特別支援学級の運営事業では、特別支援学級設置校において介助員等の配置、スクールバスの配車などを実施しています。第四中学校本校舎にエレベーターの設置を行ったことにより、肢体不自由学級と通常学級との交流及び共同学習が進み、生徒にとって豊かな社会性を

育む機会となりました。これらの経費として9,919万円支出しました。

少人数指導及び学習支援教室等の推進事業では、弾力的編成による個別指導、グループ指導及び小1プロブレムへの対応を行い、個に応じた指導の充実を図りました。また、学習につまずきのある児童生徒への支援を図るため、放課後等に学習支援教室を実施しました。きめ細やかな指導により、一人一人の学びの状況に応じた指導をすることができました。

中学校の学校図書館サポーターの配置時間を現行の1日3時間から5時間に拡大しました。また、図書のレファレンス、通常の授業や放課後の関わりを充実させ、生徒の図書室利用を進めました。こうした読書の環境づくりに努めた結果、年間貸出総数は昨年度に比べ約15%増加させることができました。この経費として1,477万円を支出しました。

災害情報・学校行事の中止等の緊急情報を、市立小・中学校から保護者にメールで連絡する「むさしの学校緊急メール」の運用を開始し、不審者情報や台風情報に利用され緊急時の連絡手段の一つとして役立っています。

Ⅲ 文化・市民生活

(1) 地域社会と市民活動の活性化

これからの地域コミュニティと市民自治の検討事業では、アンケート調査、市民ワークショップ等を実施し、562万円を支出しました。調査結果は、平成25年度に行う「これからの地域コミュニティ検討委員会」の基礎資料として活用していきます。

新しい八幡町コミュニティセンターが平成24年12月にオープンし、この経費として1億4,291万円を支出しました。新八幡町コミセンの建築、開館を通じて、八幡町地域のコミュニティづくりが活発に行われています。

(2) 互いに尊重し認め合う平和な社会の構築

平和啓発事業としまして、非核都市宣言平和事業実行委員会とともに、夏季平和事業や平和の日イベントにおいて、パネル展や講演会などを開催し、戦争の悲惨さや平和の大切さを市民に発信しました。また、非核都市宣言30周年事業として市内中高生12名による「武蔵野市青少年平和交流派遣団」を長崎市へ派遣し、平和祈念式典や青少年ピースフォーラムなどへ参加しました。これらの経費として、364万円を支出しました。

男女共同参画施策につきましては、各種講座の実施や情報誌「まなこ」の発行により男女共同参画社会実現に向けた意識啓発に努めたほか、学生へのデートDV啓発も図り、幅広い市民に理解を深めることにつながりました。また、男女共同参画推進委員会を設置し、第三次男女共同参画策定に向けて検討を行いました。

(3) 市民文化の醸成

第7回武蔵野市国際オルガンコンクールは平成24年9月に市民文化会館で本選が行われ、5か国・15人で競い合いました。予選には東日本大震災の避難者の方を招待しました。関連

企画として街かどコンサートなどを開催し、市内全体で盛り上げるとともに来街者へのPRを行い、魅力ある都市文化の発信、都市観光の推進に努めました。

観光振興事業では、観光推進機構の運営、観光情報の集積と発信、フィルムコミッション事業、吉祥寺まち案内所設置準備等を行い、3,214万円を支出しました。

(4) 市民の多様な学びやスポーツ活動への支援

ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスは、約151万人もの多くの方にご来館いただきました。図書館機能と青少年活動支援機能の連携事業やプレイスフェスタなど、複合機能施設としての特徴を生かした館内機能連携事業に取り組み、これらの経費として4億9,848万円を支出しました。

第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会の本市開催へ向けて、ラグビーフットボールやバスケットボール競技等のリハーサル大会を開催し、多くの方が観戦されました。

児童を対象とした図書サービスは、「むさしのブックスタート」、「読書の動機づけ指導」等の事業を引き続き実施し、読書推進活動を行うとともに、みどりのこども館での出張おはなし会と図書の貸出サービスを開始し、配慮の必要な子どもたちへのサービスの充実も図りました。これらの経費として952万円を支出しました。

障害者サービス事業は、視覚障がい者・身体障がい者などを対象にした音訳、点訳資料の作成、貸出等のサービスを行い、また、障がい者用録音図書を図書館ホームページで検索、予約を行えるようにしました。

(5) 地域の特性を活かした産業の振興

認定農業者経営改善支援補助事業につきましては、認定農業者の経営改善に要する事業費の一部を補助し、経営改善計画達成の支援を行いました。補助制度を利用した農業の機械化等が行われ、作業効率の向上が図られました。

地産地消と食育の推進を図るため新生児が誕生した家庭に市内農産物の引換券を贈る、このとりベジタブル事業を引き続き実施しました。市内農産物を求める若い世代が増え、リピーターになっています。

産業振興基礎調査は、平成25年度策定予定の産業振興計画（仮称）の基礎調査として、産業構造基礎調査及び来街者調査等を行い1,821万円を支出しました。

商工振興事業としましては、武蔵境ジャズセッションや商店街装飾街路灯電気料補助事業、駅前イルミネーション等への補助を行い、2,646万円を支出しました。

(6) 都市・国際交流の推進

アメリカ・ラボック市との交流事業は、「ラボック市ジュニア大使」として同市の中学生16人が来訪し、第三中学校での交流会やホームステイなど交流を図り、本市の生徒にとっても国際理解を深める機会となりました。

中国との相互交流事業は、「青年の翼親善使節団」として中高生など12人を中国に派遣し、

現地の青少年との交流を図りました。

韓国との相互交流事業は、ソウル特別市江東区へ中高生 12 人を派遣し、韓国文化体験、ホームステイなどを通じて現地の青少年との交流を図りました。また、忠州市からは中高生 11 人が来訪し、都内見学、ホームステイなどを通じて交流を図り、合わせて 167 万円を支出しました。

友好都市の P R や物産品の販売、観光情報の発信などのために設置したアンテナショップを拠点に、友好交流、友好親善及び地元商店街の活性化が図られました。

(7) 災害への備えの拡充

地震被害の軽減のために建築物の耐震化が非常に重要であり、本市では建物の耐震性の相談、市内住宅の耐震診断費用の一部助成や耐震改修費用助成を行っております。相談件数 40 件、耐震診断 117 件、耐震改修 56 件の利用があり、合わせて 6,940 万円を支出しました。平成 24 年度より、助成額を増額したこともあり制度利用件数が増加し、災害に強いまちづくりを進めることができました。

特定緊急輸送道路に指定された路線の沿道建築物の耐震化を促進するため、耐震化に要した費用の一部を助成し、診断、設計、建替え合わせて 30 件の利用がありました。この経費として 1 億 1,147 万円を支出しました。

女性消防団員採用の推進として、火災予防、啓発活動を中心とした地域の新たな担い手として 3 名が入団し、女性の持つソフトな面を活かして活動を始めました。

東日本大震災の経験を踏まえ、新たな課題に対応するため地域防災計画の見直しを行い、681 万円を支出しました。

帰宅困難者対策として、武蔵野公会堂地下を倉庫として改修し、備蓄品を整備しました。また、乳児や高齢者等の要援護者用備蓄品や医療救護所用備蓄品等の充実を図りました。この経費として 621 万円を支出しました。平成 25 年 3 月に行った帰宅困難者対策訓練は、関係機関と連携し、まちぐるみで帰宅困難者対策に取り組むことができ、また、多くの市民の防災意識を高めることができました。

防災用高所カメラの移設事業では、吉祥寺駅周辺の状況等を的確に把握するため、吉祥寺駅北口前広場付近の民間ビル屋上に高所カメラを移設し、駅前滞留者・帰宅困難者対策等を強化しました。

災害用トイレの整備については、第二小学校にマンホール式の災害用トイレ 10 基を設置し、避難所の機能充実を図りました。

固定系防災行政無線の屋外スピーカーを、市内 3 か所増設したことにより、無線放送難聴地域の解消が図られました。この経費として 960 万円を支出しました。

(8) 多様な危機への対応の強化

ホワイトイーグル及び市民安全パトロール隊による安全パトロールを引き続き実施しました。ホワイトイーグルは車両 3 台・6 人体制で、市民安全パトロール隊は 67 人体制で運用し

ました。ブルーキャップによるつきまとい勧誘等の指導は11人体制で運用し、平成24年12月には関係団体、市民と共に環境浄化推進特別パトロールを実施しました。

また、平成25年2月に吉祥寺で発生した強盗殺人事件を受け、登校時の見回りを強化し、周辺住民の不安を解消するとともに、市内の治安向上と犯罪の未然防止に繋がりました。さらに、平成25年4月からは、ミッドナイトパトロールを発足させ、駅周辺地域の安全の充実に努めております。

消費生活センターでは、消費生活相談や講座、夏休み親子教室や悪質商法被害防止街頭キャンペーン等の消費者被害の未然防止啓発事業及び広報・周知活動を行いました。

IV 緑・環境

(1) 市民の自発的・主体的な行動を促す支援

環境啓発イベントとして、むさしの環境フェスタを開催しました。市民(団体)・事業者等による環境に関する展示、クリーンセンター施設見学会、パネル展示等を開催し、多くの市民にエネルギーや廃棄物等、様々な環境に関するテーマについて、啓発を図ることができました。

二酸化炭素排出削減行動助成事業として、住宅用の太陽エネルギー利用設備・高効率給湯設備の設置に対する助成を実施し、家庭部門の再生可能エネルギーの普及や省エネを促進し、二酸化炭素排出量の削減を図ることができました。これらの経費として3,189万円を支出しました。

都市緑化フェア事業につきましては、井の頭恩賜公園において三鷹市とともに東京都と共催し、目標を超える107万人の方が来場され緑化の推進、啓発を行うことができました。

(2) 環境負荷低減施策の推進

新たなエネルギー活用検討事業では、エネルギー事業者、市民等で構成する委員会を開催しました。エネルギー消費型都市である本市において、持続可能な社会を構築するために、公共課題や目指すべき在り方等を検討しました。

太陽光発電システムの設置事業につきましては、再生可能エネルギーの普及や環境教育への活用、公共施設の防災機能の強化を図るため、第五中学校に太陽光発電システムを設置しました。この経費として2,205万円を支出しました。

LED街路灯事業では、環境負荷の低減及び省エネ、省資源化を図るため、計65基の小型水銀灯についてLED化を行いました。

環境舗装事業として、生活道路改修の際に透水性舗装を施工し、雨水の流出抑制や地下水涵養を行うとともに、試験施工として道路集水桝雨水浸透化工事を行いました。これらの経費として1億6,599万円を支出しました。

(3) 「緑」を基軸としたまちづくりの推進

公園等建設事業につきましては、吉祥寺の杜 宮本小路公園の用地買収及び桜堤二丁目防災広場新設、三谷公園拡充他7か所の改修工事等を実施しました。緑の拡充とともにオープンスペースを確保し、魅力的で潤いのある都市環境の推進が図られました。これらの経費として8億4,009万円を支出しました。

千川上水整備事業は、10か年にわたる事業の初年度として水辺環境の整備や次年度整備に関する実施設計を行い、身近な自然とのふれあい、水と緑のネットワークの拠点として、より魅力ある空間の創出が図られました。

仙川水辺環境整備事業につきましては、旧河川の埋戻し工事、既整備区間の維持管理などを行い、6,655万円を支出しました。

(4) 循環型社会システムづくりの推進

クリーンセンターの焼却施設・粗大ごみ処理施設等の法定点検及び改修工事を実施し、3億9,975万円を支出しました。

新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業につきましては、土壌汚染調査や環境啓発事業を実施したほか、第二期施設周辺設備協議会においてエコプラザ（仮称）や周辺整備の検討を進めました。これらの経費として6,756万円を支出しました。

(5) 生活を取り巻く様々な環境の変化に伴う新たな問題への対応

放射線に関する事業では、空間放射線量測定、学校・保育園給食食材放射性物質検査などを継続的に実施し、放射線に対する市民の不安の解消を図りました。これらの経費として2,721万円を支出しました。

V 都市基盤

(1) 地域の特性に合ったまちづくりの推進

都市計画マスタープランにおいて住環境の保全や景観の観点から建築物の高さの最高限度の導入を検討することとし、具体化を進めました。高さ制限を導入するにあたっての基本方針及び素案を公表し、4回の説明会を行い、意見募集を実施しました。

景観道路事業は、景観整備路線事業計画の早期事業化路線について、電線共同溝の設置や街路築造工事等を行い、2億4,933万円を支出しました。

(2) 都市基盤の更新

橋りょう新設改良事業では、老朽化した橋の保護及び補修を行いました。予防保全型管理を行い、橋りょうの長寿命化、安全性の確保、コストの平準化及び縮減を図っています。

(3) 利用者の視点を重視した安全で円滑な交通環境の整備

三鷹駅北口駅前広場に点字・音声案内を備えユニバーサルデザインに対応した総合案内板を設置し、よりわかりやすい案内・誘導の充実を図りました。

放置自転車対策業務では、駐輪場の整備とともに、三駅周辺を中心にした放置防止指導により放置自転車数が減少しました。

ムーバス運行事業では、バス運行時間の延長、交通 I Cカードの導入により利便性の向上を図りました。ムーバスには、昨年度を上回る 265 万人の方にご利用いただきました。この経費として 7,520 万円を支出しました。

(4) 道路ネットワークの整備

道路新設改良事業では、経年劣化した主要道路等の改修整備を行いました。市道第 240 号線については、2 か年での整備が完了し、誰もが歩いて楽しい道づくりを目指し、安全性の向上を図りました。

都市計画道路 7・6・1 号線（御殿山通り）事業では、玉川上水沿いの三鷹橋～むらさき橋間について、電線共同溝修正設計や測量等を行い、1 億 3,088 万円を支出しました。

(5) 下水道の再整備

雨水浸透施設助成事業は、雨水浸透施設を設置する者に対して助成金を交付しており、64 件の助成を行い、2,089 万円を支出しました。

公共下水道建設事業では、都市計画道路 7・6・1 号線及び都市計画道路 3・4・24 号線等の道路整備に合わせ、下水道管きよを築造しました。

合流式下水道改善施設につきましては、吉祥寺東町四丁目地内に貯留槽を設置したほか、吉祥寺東町一丁目地内に貯留槽の設置工事に着手しました。これらの経費として 13 億 6,008 万円を支出しました。

大雨による浸水被害の軽減を図るために、第三小学校に雨水貯留浸透施設を設置したほか、北町保育園の建替えに合わせ雨水貯留施設を設置するための実施設計を行い、9,313 万円を支出しました。

(6) 住宅施策の総合的な取組み

分譲マンション実態調査事業では、管理組合等の課題についてアンケート等により状況を把握し、施策の方向性を検討しました。

(7) 三駅周辺まちづくりの推進

三鷹駅北口まちづくり構想の検討事業につきましては、三鷹駅北口地区まちづくりシンポジウム実行委員会と連携して、意見交換会を 2 回開催しました。意見交換会に出席した住民、商工業者等から出されたまちづくりにおける課題や将来イメージなどを意見集として取りまとめました。

鉄道連続立体交差事業では、東京都に対し鉄道連続立体交差事業負担金 4 億 5,984 万円を支出しました。

吉祥寺駅南北自由通路整備事業については、まちの軸となる吉祥寺駅南北自由通路の拡幅・直線化の整備に着手し、6,887 万円を支出しました。

吉祥寺地区まちづくり検討調査事業では、J R・京王吉祥寺駅改良に併せ駅周辺の交通体系の検討を行い、また、北口駅前広場の整備プラン（案）を策定しました。吉祥寺東部地区については、市有地を含む地区の在り方について検討しました。

武鉄中付第 1、第 2、第 3 号線整備事業は、連続立体交差事業に合わせ、電線共同溝の設置やまちづくり側道の街路築造を行い、武鉄中付第 1 及び第 2 号線事業は完了しました。これらの経費として 2 億 5,723 万円を支出しました。

武蔵境駅周辺整備事業につきましては、駅舎連続施設（北側）新築工事に着手したほか、武蔵境駅北口広場の電線共同溝の予備設計及び道路詳細設計を行いました。また、市道第 291 及び 292 号線の交通開放に向けた説明会の開催及び交差点改良工事を実施し、都道 123 号線拡幅整備事業については、土地鑑定や電線共同溝の詳細設計を行いました。これらの経費合わせて 1 億 4,182 万円を支出しました。

（8）安全でおいしい水の安定供給

災害時にも安全でおいしい水を安定供給するために、配水管の新設や老朽管の更新等配水管路の耐震化を図り、3 億 6,834 万円を支出しました。耐震化率が 42.1%と前年度に比べ 1.3 ポイント上昇しました。

円滑で効率的な水運用のため、経年劣化した浄水場施設を計画的に維持・更新するとともに、安定的な取水量を確保するため深井戸の更生工事を行い、1 億 3,634 万円を支出しました。

VI 行・財政

（1）市政運営への市民参加と多様な主体間の柔軟な連携と協働の推進

市制施行 65 周年記念シンポジウム事業では、武蔵野市のまちの魅力をテーマにパネルディスカッション等を実施しました。

市民協働推進事業では、市民及び市民活動団体等向けの講座や研修を実施しました。また、市民協働推進情報誌を 3 回発行し、市民、市民活動団体等の市民活動や協働に関する意識を高めるきっかけとなりました。

（2）市民視点に立ったサービスの提供

電子自治体共同運営では、電子申請サービス及び電子調達サービスを利用し、電子申請については、1,545 件の利用があり、電子調達については、445 件の電子入札を行いました。

(3) 市民に届く情報提供と市民要望に的確に応える仕組みづくり

市勢要覧の発行事業では、要覧の配布を行うとともに電子ブック版（日本語・英語）を作成しホームページに掲載しました。

ホームページの運営事業については、高齢者や障がい者などに配慮したアクセシビリティ方針の策定に向けた調査を実施しました。

わかりやすい広報の研究事業では、庁内研究チームを設置し、広報・広聴の連携強化、ソーシャルメディアの広報・広聴等について調査研究を行い、ツイッターでの情報提供の拡大など、利便性が向上しました。

市民の声を聴き市政に反映するため、市民と市長のタウンミーティングを地域別、テーマ別、青空タウンミーティングとして合わせて7回開催しました。

(4) 公共施設の再配置・市有財産の有効活用

公共施設外壁調査事業では、今後の施設劣化保全整備計画に役立てるため、公共施設に対して赤外線調査を行いました。

公共施設改良保全整備事業、公共施設劣化保全事業につきましては、改良保全のうちエレベーター地震時閉じ込め防止設置工事や不活性ガス消火設備交換を小学校や市民文化会館等で実施し、災害時の安全性が高まりました。また、劣化調査の結果に基づき保全整備も実施し、合わせて4億4,552万円を支出しました。

(5) 社会の変化に対応していく行財政運営

財政援助出資団体について、公共サービス提供主体の多様化などの社会状況を踏まえたうえで、経営状況や果たすべき役割を精査し、今後の在り方を検討しました。また、第三者機関による調査及び在り方に関する検討報告書を作成しました。

住民記録・税・国保等の住民情報系システムについて、業務やシステムの最適化を図るため再構築を進めており、平成26年1月のシステム稼働に向けて、事業者選定、インフラ基本設計等の作業を行いました。

(6) チャレンジする組織風土の醸成と柔軟な組織運営

市民雇用創出事業については、市の業務を見直し、ワークシェアリングと求職者の生活支援を目的に市民の雇用を創出するという観点から嘱託職員の任用を行いました。中高年齢者及び障がい者を対象として、平成25年3月現在で211人の嘱託職員を任用しました。また、本市独自の緊急雇用対策として、14人の嘱託職員を任用し、合わせて6億6,057万円を支出しました。このことにより、多様な人材が実際に市の業務を担うことで柔軟な組織運営に貢献しています。

(2) 誰もが地域で安心して暮らしつづけられる仕組みづくりの推進

<p>5 地域リハビリテーション推進事業</p> <p>《民生費 ○地域リハビリテーション推進事業》 [地域支援課]</p>	<p>予算 1,661 決算 673</p>	<p>全ての市民が住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるまちづくりを目標に、多職種多機関の連携の推進、介護と医療の連携の推進、支援従事者への研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーション推進協議会 年2回開催、在宅支援連絡会 年12回、その他(救急医療情報シートワーキング、バックベッドワーキング、各月1回〜随時) ・啓発リーフレットの作成・配布 ・ケアマネジャーを対象とした医療連携研修 4回 参加者 延293人 ・介護保険等事業所を対象としたスキルアップ・定着支援のための研修 ・小規模居宅介護支援事業所研修 17人 ・主任介護支援専門員研修 3日間 32人 ・講演会「被災時から復興期における高齢者への段階的支援とその体制の在り方」 2回 計187人 ・市内の特別養護老人ホーム栄養士連絡会 年2回 ・講座「福祉専門職のメンタルヘルス」 52人
<p>6 高齢者見守り支援事業</p> <p>《民生費 ○高齢者日常生活支援事業》 [高齢者支援課]</p>	<p>予算 8,386 決算 4,386</p>	<p>独居高齢者や高齢者世帯を対象に、心疾患等のある方の緊急対応のための①緊急通報システム、②火災安全システムの設置・貸与、③遠方家族などにガス利用状況を通信する、独居高齢者の安否見守り支援事業などを実施した。このような事業と平行して、民生委員や事業者による孤立防止ネットワーク連絡会議を開催し、総合的な高齢者への見守り支援に繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急通報システム…79件 ・火災安全システムの貸与…6件 防災用品の給付…3件 ・ガス利用状況お知らせサービス利用助成…4人 ・福祉電話貸与台数…60台
<p>7 認知症高齢者支援事業</p> <p>《民生費 ○認知症高齢者支援事業》 [高齢者支援課]</p>	<p>予算 12,011 決算 8,690</p>	<p>認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法について広く普及するため、啓発活動や相談事業を実施した。また、認知症高齢者及び家族への支援として、ヘルパーを派遣し、認知症高齢者見守り支援事業を実施した。相談事業の充実、普及啓発の推進、在宅生活支援の3つの柱に基づく事業によりその人らしく地域で生活を継続することに寄与している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座…70回、2,006人 ・認知症相談事業…相談件数 85人 ・認知症見守り支援事業…決定者数 11人、登録者数 26人 延利用時間 2,821時間 延利用者数 323人
<p>8 家族介護支援事業</p> <p>《介護保険事業会計 ○包括的支援事業・任意事業費》 [高齢者支援課]</p>	<p>予算 18,977 決算 17,032</p>	<p>家族介護者の負担を軽減し、在宅での介護を支援するため、介護家族の交流・情報交換の機会の提供、介護技術講座、はいかい探索システムの貸与、家族介護用品(おむつ)の支給などを実施した。精神的、経済的、在宅支援の複合的な視点の事業により、家族介護者の負担軽減に繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護家族支援プログラム：実施回数 156回 ・介護技術講座：延参加者数 21人 ・はいかい高齢者等探索事業：設置台数 14件 ・家族介護用品の支給：延件数 1,605件 ・家族介護慰労金支給事業：支給件数 1件

9	みどりのこども館の管理運営 《民生費 ○みどりのこども館管理運営事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	88,599 87,021	主に就学前の子どもと保護者への支援を目的とする「みどりのこども館」内で、地域療育相談室ハビット、こども発達支援室ウィズ、おもちゃのぐるりんを運営し、ハビットでは相談員1人が「相談支援専門員」の資格を取得し、指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業所の開設に向けて準備を進めた。 ・ハビット：新規療育相談169件、医療相談38件、親子通園12グループ ・ウィズ：利用者数11人 ・おもちゃのぐるりん：利用児数延5,424人、手作りおもちゃの会参加数789組、おもちゃ貸出数563件
10	地域自立支援協議会の運営 《民生費 ○障害者自立支援給付等事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	1,060 892	地域における障害者及び障害児への支援体制に関する課題等について協議する地域自立支援協議会を6回開催した。また、くらす、はたらく、権利擁護、相談支援、障害当事者の専門5部会を月1回開催したほか、専門部会主催の研修会・講演会を3回開催した（延参加人数128人）。

(3) 誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進

11	食育講演会の実施 《衛生費 ○一般管理経費》 [健康課]	予算 決算	825 609	家庭における食育の推進を図るため、健康推進計画の食育の基本方針に基づき、『食の大切さや家庭で実践できる食育』を主題とした講演会を実施した。また講演会に合わせて食育に関する展示会を行い、家庭での食の大切さや、一緒に食べることの大切さについて、参加者の意識の向上を図った。 ・参加人数 79人
12	妊婦健康診査の拡充 《衛生費 ○母子保健事業》 [健康課]	予算 決算	78,524 81,457	平成24年度より、それまで35歳以上の妊婦を対象に公費助成していた超音波検査の年齢要件を撤廃し、全ての妊婦が受診できるよう妊婦健康診査の拡充を行った結果、受診者数が約3倍に増加した。 ・受診者数：平成24年度1,040人、平成23年度339人
13	子宮頸がん等ワクチン接種事業 《衛生費 ○予防接種事業》 [健康課]	予算 決算	108,293 117,308	任意接種の子宮頸がん予防、ヒブ、小児用肺炎球菌の各ワクチンの接種費用助成を実施した。平成24年度の子宮頸がん予防は市内在住の中1～高1（平成23年度中に接種を開始した高2を含む）の女子を対象に接種回数3回、ヒブ、小児用肺炎球菌は市内在住の生後2か月～5歳未満を対象に1～4回の接種を行った。子宮頸がん予防、ヒブは市が助成することにより接種者数が増加した。 ・子宮頸がん予防 助成額14,439円 （自己負担1,500円/回、延接種者数2,395人） ・ヒブ 助成額8,052円 （自己負担800円/回、延接種者数4,310人） ・小児用肺炎球菌 助成額10,267円 （自己負担1,000円/回、延接種者数4,462人）
14	がん検診受診率向上事業 《衛生費 ○老・成人保健事業》 [健康課]	予算 決算	4,577 4,666	がんによる死亡率を下げるため、がん検診の受診率を向上させる事業を実施した。24年度はがん検診についての意識調査を実施し、これにより、具体的な施策を検討するためのデータ収集を行うことができた。 ・調査対象 5,000人（無作為抽出） ・回答数 2,099人（有効回答率42.0%）

15	療養費支給申請内容点検委託 《国民健康保険事業会計 ○一般管理経費》 [保険課]	予算 決算	4,327 489	医療費支出の適正化の一つとして、柔道整復師等の療養費申請の内容点検を外部委託化し、審査体制の強化を図った。
16	特定健康診査等実施計画作成 《国民健康保険事業会計 ○特定健康診査等事業費》 [保険課]	予算 決算	3,000 1,113	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、平成25年度から5年間で計画期間とする第2期計画を作成した。現状分析を行い、5年後の特定健康診査受診率と特定保健指導実施率の目標値及び年度毎の目標値を定めた。
17	元気アップ高齢者訪問相談事業 《介護保険事業会計 ○介護予防事業費》 [高齢者支援課]	予算 決算	3,500 2,355	生活機能チェックリストの未回答者等を対象に、在宅支援の必要性の確認のための訪問調査を臨時職員を任用して実施した。未回答者1,806人に対して実施し、817人に面談を行いチェックリストを回収した。今年度は在宅介護支援センターに早急に繋げるケースはなかったが、センターが地域の相談機関であることを知らず、かつリスクが高いと思われるケース32件に対して、問題が発生した場合は在宅介護支援センターに相談するよう紹介できている。
18	市民こころの健康支援事業 《民生費 ○精神障害者援護事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	3,150 3,150	市民のこころの健康に寄与するため、また、専門職による「相談支援」やメンタルヘルスについて正しい情報を伝えるため、市内の団体等の要請に応じ専門講師を派遣する「出前講座」とテーマ・対象等を絞った「テーマ講座」をそれぞれ実施した。 ・相談支援 85件 ・出前講座 5回開催（参加人数 387人） ・テーマ講座 2回開催（参加人数 84人）

(4) 誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり

19	障害者就労支援センターあいの運営 《民生費 ○心身障害者在宅等援護事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	35,049 35,024	障害の種別や障害者手帳の有無を問わず、職業相談、就労準備支援、職業定着支援、余暇支援など総合的な就労支援を実施した。また、ハローワーク、就労支援事業所、特別支援学校などを含む学校、企業などとのネットワークを活用して情報の共有化を推進した。 ・登録者272人、新規就職者32人 ・「障がい者の就労を考えるつどい2012」参加人数 116人
20	引きこもりサポート事業 《民生費 ○精神障害者援護事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	5,007 5,007	当事者、家族に対する電話や来所・訪問等による相談、普及啓発の一環として、家族セミナーや講演会等を実施した。平成24年度は新たに「若者による活動報告プログラム」を実施した。 ・相談事業 778件、新規相談登録者23件 ・家族セミナー7回開催（参加人数 161人） ・講演会 2回実施（参加人数 109人）

(5) 住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備

21	ケアマネジャー研修センター運営事業 《民生費 ○介護サービス事業者支援事業》 [地域支援課]	予算 決算	1,734 1,011	介護サービスの質の向上を図るため、研修センターに登録しているケアマネジャーを対象に、スキルアップを目的とした研修会や、ケアマネジメントの強化を目的とした個別の研修会を実施した。 ・新任研修 25人 ・専門研修 4回 延250人 ・ケアプラン指導研修 6回 19事例
----	--	----------	----------------	---

22	介護保険利用者負担額助成事業（5%助成） 《民生費 ○介護保険事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	28,801 25,026	介護保険を利用する低所得者に対し、訪問介護サービス利用料10%のうち5%分の助成を行った。低所得者の経済的な負担を軽減することで、安心して在宅サービスが継続できるよう図った。（予算額・決算額は扶助費のみ） ・介護保険利用者負担額助成事業 実支給人数 969 人、支給件数 8,883 件
23	通所サービス利用者食費助成事業（200円助成） 《民生費 ○介護保険事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	15,125 12,652	介護保険を利用する低所得者に対し、通所サービス利用時にかかる食費のうち、一食あたり200円の助成を行った。低所得者の経済的な負担による通所サービス利用抑制の軽減を図った。（予算額・決算額は扶助費のみ） ・通所サービス利用者食費助成事業 実支給人数 837 人、延交付食数 63,333 食
24	グループホーム等給付事業 《民生費 ○障害者自立支援給付費等事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	169,668 190,878	住み慣れた地域での生活の継続を支援するため、グループホーム新設に向けての開設支援、家賃助成、給付費の支給などを行った。 ・「関前桜寮」2人分増床 ・「吉祥寺泉寮」開所、10人新規入居

II 子ども・教育

(1) 子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援

1	子ども家庭支援センター事業 《民生費 ○子ども家庭支援センター事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	37,349 34,510	子どもとその家庭に対する相談事業、産前・産後支援ヘルパー事業、子育てショートステイ等を実施し、子育て支援ネットワークの中核機関として各機関との連携を進め、子育てに不安を持つ家庭を適切に支援することができた。 ・相談事業延活動件数 15,237 件
2	子育て支援事業 《民生費 ○子育て支援事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	10,024 8,514	子育て家庭の孤立防止を主な目的とした「子育てステーション制度」のモデル事業や、親や地域の子育て力向上、ボランティア育成のための事業を実施した。地域での子育てを支える取組みが充実した。 ・モデル事業 参加者数 49 人 ・ひろば事業 延参加者数 12,178 人 ・親支援講座 延参加者数 88 人 ・子育てひろばボランティア講座 実参加者数 27 人
3	0123施設の管理運営 《民生費 ○0123施設の管理運営》 [子ども家庭課]	予算 決算	96,550 89,819	0～3歳までの乳幼児の豊かな育ちとその親の子育てを支援する事業を行うため、(公財)武蔵野市子ども協会に管理運営を委託した。前年度より利用者数が増加し、遊びや交流が活発に行われた。 ・延利用者(子ども)数：吉祥寺 15,808 人 はらっぱ 26,255 人
4	私立幼稚園等助成事業 《総務費 ○私立幼稚園等助成事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	310,860 295,433	私立幼稚園及び私立幼稚園等園児保護者の負担を軽減することで、引き続き幼児教育の振興を図ることができた。 ・幼稚園への補助 41,226,780 円 ・保護者への補助 252,983,380 円
5	乳幼児及び義務教育就学児医療費助成事業 《民生費 ○乳幼児及び義務教育就学児医療費助成事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	502,158 484,129	乳幼児及び義務教育就学児の医療保険診療自己負担分を助成した。 ・医療費助成額 459,905,904 円 ・対象児童数 乳幼児 7,339 人 (前年度比 460 人増) 義務教育就学児 8,615 人 (前年度比 131 人増) ・助成件数 乳幼児 134,893 件 義務教育就学児 118,333 件

6	児童扶養手当等支給事業 《民生費 ○児童扶養手当等支給事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	398,680 375,187	ひとり親家庭等や障がいのある児童の保護者に対する児童扶養手当・児童育成手当を支給した（所得制限あり）。 ・児童扶養手当支給額 206,203,420円 世帯数 499世帯 ・児童育成手当支給額 162,754,500円（育成手当 962人、障害手当 80人）
7	子ども手当等支給事業 《民生費 ○子ども手当等支給事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	1,757,217 1,769,155	中学校修了前の児童の保護者に子どものための手当（児童手当）を支給した。平成24年6月から児童手当所得制限実施により所得制限限度額以上の者に特例給付を支給した。 ・児童手当支給額 1,195,615,000円 ・受給者数 6,709人 対象児童数 9,645人、 ・特例給付支給額 204,650,000円 ・受給者数 3,293人 対象児童数 5,152人、 ・子ども手当支給額 357,528,000円
8	ひとり親家庭医療費助成事業 《民生費 ○ひとり親家庭医療費助成事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	27,353 21,874	ひとり親家庭等に対し、医療保険診療自己負担分（課税世帯は一部）を助成した（所得制限あり）。 ・医療費助成額 21,109,465円 ・受給世帯数 434世帯 ・受給対象者数 649人（前年度比 44人減） ・助成件数 9,091件
9	ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業 《民生費 ○ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	13,590 6,413	修学、就労、疾病又は生活環境の変化等により、一時的に家事、育児等の日常生活の援助を必要とするひとり親家庭にホームヘルパーを派遣し、生活の安定を図った。 ・実世帯数 29世帯（前年度比 5世帯減） ・派遣日数 1,197日（前年度比 359日減）
10	鳥取県家族ふれあい長期自然体験 《総務費 ○青少年活動育成事業》 [児童青少年課]	予算 決算	3,462 2,670	鳥取県の山間漁村において、自然体験や地域で家族が生活し、地域との交流を行った。このことにより、家族のきずなの確認、都市と地方とのつながりの理解、児童の健全育成が図られた。 ・参加者 29家族 90人
11	親子棚田体験事業 《総務費 ○青少年活動育成事業》 [児童青少年課]	予算 決算	731 650	新潟県長岡市小国町において、農業体験や野菜の収穫等を行った。この事業を通して親子の絆が深められ、また、地方と都市の交流が図られた。 ・参加者 春（田植え）12家族 31人 秋（稲刈り）8家族 20人
12	緊急待機児対策 《民生費 ○認可外保育施設助成事業》 [保育課]	予算 決算	35,094 39,810	保育所入所待機児童を解消するため、UR都市機構サンヴァリエ桜堤内の賃貸住宅を活用して、グループ保育室「どんぐり」を平成24年4月に開設した（定員10人）。
13	境こども園（仮称）建設事業 《民生費 ○保育所運営委託事業》 [保育課]	予算 決算	181,627 101,202	平成25年4月の境こども園の開設に向けて、建設工事及び職員体制整備の経費について、設置・運営主体となる（公財）武蔵野市子ども協会に対し補助を行った。同園は、建設請負事業者の自己破産により工事が中断したため、年度内に竣工に至らず、平成25年4月からは代替施設において保育を開始した（長時間保育21人、短時間保育27人、合計48人）。建設事業補助金66,202千円、職員体制整備補助金35,000千円

14	子ども協会立北町保育園建替事業 《民生費 ○保育所運営委託事業》 [保育課]	予算 決算	225,358 206,183	北町保育園移転改築に伴い、設置・運営主体となる（公財）武蔵野市子ども協会に対し補助を行った。新園舎は、平成25年3月に竣工し、定員を拡大し保育を開始した（32人増）。
15	保育の質向上の取組み 《民生費 ○一般管理経費》 [保育課]	予算 決算	7,118 7,042	保育の質向上の取組みとして、保育園アドバイザー、保育園カウンセラーの配置、保育相談員の巡回指導の充実、職員研修等を行った。平成24年3月に策定した武蔵野市保育のガイドラインに沿って、ガイドライン委員会保育部会を立ち上げ、認可保育園の質の向上を図った。

(2) 地域社会全体の連携による子ども・子育て支援の充実

16	幼児教育振興研究委員会の設置 《総務費 ○児童対策事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	370 341	総合的な幼児期の教育の振興を図るため、学識経験者や私立幼稚園長等と連携・協働し、幼児期の教育への市の関与のあり方などについて検討した。
17	子どもを守る家関連推進事業 《総務費 ○子どもを守る家関連推進事業》 [児童青少年課]	予算 決算	1,448 1,268	「子どもを守る家」「自転車防犯帯」協力員の拡大及び活動の意義・目的の再認識と情報提供を行ったことにより、地域社会全体で子どもを見守っているということの周知ができた。子どもが自ら身を守ることを意識づけを目的とした「CAPワークショップ」を実施した。このことにより、子ども自身及び保護者の安全意識の醸成が図られた。 ・子どもを守る家1,935件、自転車防犯帯3,107件（H25.3月現在）

(3) 青少年の成長・自立への支援

18	市立自然の村管理運営 《総務費 ○市立自然の村の管理運営》 [児童青少年課]	予算 決算	44,074 44,406	青少年をはじめとする多くの市民が利用しやすい施設とするため、長野県南佐久郡川上村にある市立自然の村の施設の管理運営、利用促進バスの運営、天体観望会などを委託し、実施した。また、案内看板設置工事などの維持修繕を行なった。豊かな自然環境の中で、自然に親しむことができ、共同生活を通じて青少年の健全育成が図られた。 ・宿泊利用人数 延5,596人、利用促進バス11回運行 延158人利用
19	むさしのジャンボリー事業 《総務費 ○むさしのジャンボリー事業》 [児童青少年課]	予算 決算	13,495 11,914	武蔵野市青少年問題協議会地区委員会との共催事業として、2泊3日のキャンプを11回実施した。中高生のサブリーダーや地域の指導者とともに、参加した小学生の自立心や創造性、自然への興味と理解などが育まれた。 ・市立自然の村 参加者1,404人 （小学校4～6年生児童896人、指導者330人、サブリーダー178人）
20	青少年問題協議会の運営と地区委員会活動の推進 《総務費 ○青少年問題協議会・地区活動事業》 [児童青少年課]	予算 決算	11,486 10,746	市の青少年に対する総合的施策の実施を推進し、青少年の健全育成を図るため、青少年問題協議会定例会の開催及び地区委員会の活動に対する補助を行った。青少年の健全育成に関わる様々な機関が情報の共有や意見交換し、相互の連携が図られた。また、それぞれの地区委員会の活動の促進が図られた。 ・市内12地区委員会1,430人

21	青少年活動育成（鳥取県家族ふれあい自然体験事業、親子棚田体験事業を除く） 《総務費 ○青少年活動育成事業》 [児童青少年課]	予算 決算	21,151 19,706	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生リーダー講習会：154人（参加申込数） ・善行表彰：3人、2グループ ・自然体験指導者講習：3回実施、延参加人数61人 ・青少年団体バス借上げ：バス借上げ32団体、講師謝礼補助5団体 ・冒険遊び場公園（プレーパーク）：総来場者数16,648人 イベントプレーパーク開催数7回 ・二俣尾自然体験：1日実施、6家族20人 ・遠野市との児童交流：受入児童20人 <p>これらの事業により青少年の健全育成が図られ、また、家族の交流が深まった。</p>
22	ハバロフスク市青少年交流事業 《総務費 ○ハバロフスク市青少年交流事業》 [児童青少年課]	予算 決算	2,453 976	<p>武蔵野市・ハバロフスク市青少年相互交流に関する協定書に基づき、7泊8日の日程で青少年交流団をハバロフスク市に派遣した。異国の地で異なった環境下でのキャンプとホームステイを通し、青少年達がお互いに友情を深めた。団員の中には、帰国後もハバロフスク市の団員と連絡を取り合い、交流を続けている団員もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12～18歳の青少年20人、随行員4人
23	地域子ども館事業 《民生費 ○地域子ども館事業》 [児童青少年課]	予算 決算	128,421 121,732	<p>小学生が安全かつ健全に放課後等を過ごし、仲間づくりや異年齢交流を図ることができるように、学校施設を利用した地域の居場所・遊び場を提供し、小学生の健全育成が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延参加児童数452,355人
24	学童クラブ事業 《民生費 ○学童クラブ事業》 [児童青少年課]	予算 決算	182,992 182,895	<p>市内在住で小学校低学年の、放課後監護に欠ける児童の健全育成を行った。地域子ども館 あそべえとの連携をすすめ、土曜日開所の試行を行った。これにより、対象児童の安全確保及び健全育成と、保護者の就労等の支援が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15クラブ 定員800人 在籍数（年間平均）697人（民間学童クラブ含む）

（４） 子ども・子育て家庭を支援する体制・施設の整備

25	泉幼稚園跡地利用施設の建設 《民生費 ○泉幼稚園跡地利用施設事業》 [子ども家庭課]	予算 決算	0 1,760	<p>子どもの健やかな成長と親の子育て力の向上を図るため、泉幼稚園跡地に地域参加型の子育て支援施設を建設する。子育てひろば機能、グループ保育機能、夜間・宿泊を含む一時保育サービス機能を地域の力で展開する。平成24年度は基本・実施設計委託事業者を選定し、前払金として委託料の一部を支出し、平成26年7月の開設に向けて準備を進めることができた。</p>
26	児童館運営事業 《民生費 ○児童館の管理運営》 [児童青少年課]	予算 決算	15,980 13,492	<p>子どもたちの健全育成を目的として、乳幼児親子と小・中学生を対象に、健全な遊びと安全な居場所の提供及び子育て支援を実施した。境こども園さくらの実施で、使用スペースは狭くなったが部屋の使い方の工夫等により、利用者数が3,319人増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業回数246回、参加者延11,613人 ・一般来館者 延30,663人、総計 延42,276人

27	プレこども園事業 《民生費 ○プレこども園事業》 [児童青少年課]	予算	34,734	平成23年度で発展的解消した境幼稚園と、平成25年度に新設予定の境こども園との間の空白期間を埋めるため、桜堤児童館にて、境幼稚園の教育の特色を引き継いで「境こども園さくら」を運営した。事業運営は（公財）武蔵野市子ども協会に委託した。この事業により、就学前の幼児たちが様々な遊びや体験を通して成長し、また、子どもたち同士、保護者同士の交流が図られた。
		決算	34,764	

(5) 次代を担う力をはぐくむ学校教育

28	学校緑化支援事業 《教育費 ○校舎等施設維持管理》 [教育企画課]	予算	12,286	学校の自主的な緑化の取り組みを支援し、児童への環境教育、市民の緑化に対する意識の向上を図るために境南小学校校庭の一部芝生化を行ったことにより、児童の遊びや憩いの場となっている。
		決算	3,092	
29	教育相談事業（不登校対策の推進） 《教育費 ○教育相談事業》 [教育支援課]	予算	75,180	教育支援センター、学校、子ども家庭支援センター等関係機関が連携を強化し、いじめ・不登校・発達障害などの相談・支援を行った。また、東京都「学校と家庭の連携推進事業」の実施校を3校に拡大し、不登校傾向にある児童・生徒の支援を行った。 ・延来所相談件数 3,334件 延学校派遣支援件数 6,464件 ・学校と家庭の連携推進事業実施校 3校
		決算	73,492	
30	特別支援教育推進事業（学校支援人材の派遣） 《教育費 ○特別支援教育推進》 [教育支援課]	予算	10,879	専門家スタッフ（大学教授等）を各小・中学校に計132回派遣、サポートスタッフ（心理学を専攻する大学院生等）登録者30人を延791回派遣、ティーチングアシスタント（教員を希望する学生等）登録者103人を延1,744回派遣し、学校教育の充実を図った。校内における特別支援教育の促進と児童・生徒の学習意欲や姿勢が向上した。
		決算	9,951	
31	特別支援学級の運営 《教育費 ○知的障害学級運営○難聴・言語障害学級運営 ○肢体不自由学級運営○院内病弱学級運営○情緒障害学級運営》 [教育支援課]	予算	115,740	介助員等の配置、スクールバスの配車を行い、特別支援学級（知的障害学級、難聴・言語障害学級、肢体不自由学級、院内病弱学級、情緒障害学級）の運営を行った。また、第四中学校本校舎にエレベーターを設置することにより、いぶき学級生徒の本校舎内での移動が容易になり、特別支援学級（肢体不自由学級）と通常学級との交流及び共同学習が積極的に進められ、相互理解が促進された。このことは障害のある児童・生徒、障害のない児童・生徒双方にとって、豊かな社会性を育む機会となった。
		決算	99,193	
32	少人数指導及び学習支援教室等の推進 《教育費 ○児童生徒指導》 [指導課]	予算	30,876	学級内及び学級の枠を超えた弾力的編成による個別指導、グループ指導及び、小1プロブレムへの対応を行い、個に応じた指導の充実を図った。また、学習につまずきのある児童生徒への支援を図るため、希望者に対して放課後等に学習支援教室を実施した。 きめ細やかな指導により、一人一人の学びの状況に応じた指導をすることができた。
		決算	28,525	
33	小学校外国語活動指導助手の配置 《教育費 ○児童生徒指導》 [指導課]	予算	6,649	平成20年度より、市立小学校にALT（外国語活動指導助手）を配置し、5、6年生の外国語活動を開始している。全12校で年間35時間、市が任用した6人のALTが教員とともに外国語活動を実施した。 外国語に対する興味や関心を高めるとともに、積極的にコミュニケーションをとる児童が増えた。
		決算	7,366	

34	小学校高学年における理科指導員の配置 《教育費 ○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	9,904 9,419	都の加配教員配置校1校、都講師配置1校を除いた全ての小学校10校の高学年において理科の専門性の高い指導員を年間70時間配置し、質の高い授業を行った。観察、実験を通して児童の理科への関心を高めることができた。
35	学校図書館サポーターの充実 《教育費 ○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	14,563 14,765	中学校の学校図書館サポーターの配置時間を現行の1日3時間から5時間に拡大した。また、書架の整理、図書のレファレンス、通常の授業や放課後の関わりを充実させ、子どもたちの図書室利用を進めた。その結果、年間貸出総数は平成23年度に比べ約15%増加し読書活動が推進された。
36	緊急連絡システムの構築 《教育費 ○情報教育指導》 [指導課]	予算 決算	1,880 2,147	災害情報・学校行事の中止等の緊急情報を市立小・中学校から児童・生徒の保護者の携帯電話等にメールで連絡する「むさしの学校緊急メール」の運用を平成24年4月1日より開始した。平成24年度末の登録率は約8割、年間配信件数は357件であり、不審者情報や台風情報に利用され緊急時の連絡手段の一つとして役立った。
37	セカンドスクール 《教育費 ○セカンドスクール》 [指導課]	予算 決算	126,715 114,641	市立小学校5年生(全12校)・中学校1年生(全6校)を対象に、農山漁村等における長期滞在型の体験学習をするセカンドスクールを学校単位で実施した。また、小学校4年生(全12校)を対象に短期宿泊体験学習であるプレセカンドスクールを実施した。年度末に小・中学校合同の実践報告会を行い、ねらいの再確認や体験活動の情報共有ができた。
38	音楽クラブ楽器購入・修繕 《教育費 ○特色ある教育活動の奨励事業》 [指導課]	予算 決算	7,938 7,767	市立小中学校のうち吹奏楽等音楽クラブのある14校において、楽器購入や老朽化した吹奏楽器等を修繕することにより長期的に使用できるようにし、児童生徒の音楽クラブ活動の支援を行った。

Ⅲ 文化・市民生活

(1) 地域社会と市民活動の活性化

1	これからの地域コミュニティと市民自治の検討 《総務費 ○コミュニティセンターの管理運営・コミュニティ活動》 [市民活動推進課]	予算 決算	6,000 5,624	アンケート調査、市民ワークショップ、グループインタビューを実施し、幅広く意見収集を行い、地域コミュニティや市民自治のあり方について市民が考えるきっかけづくりを行った。調査結果は、平成25年度に設置するこれからの地域コミュニティ検討委員会の基礎資料とする。
2	コミュニティセンターの管理運営及びコミュニティ活動(八幡町コミセン建替関連経費を除く) 《総務費 ○コミュニティセンターの管理運営・コミュニティ活動》 [市民活動推進課]	予算 決算	322,033 299,429	コミュニティセンターの管理運営を指定管理者である16のコミュニティ協議会に委託し、市民による自発的なコミュニティづくりが活発に行われた。館の維持管理と基盤整備を行い、コミュニティづくりのための安全で快適な空間を確保した。

3	八幡町コミュニティセンターの建替え 《総務費 ○コミュニティセンターの管理運営・コミュニティ活動》 [市民活動推進課]	予算	150,930	新八幡町コミセンの建築・電気設備・機械設備・植栽の各種工事を行い、平成24年11月竣工した。旧八幡町コミセンからの移転作業、備品購入をすすめ、12月1日にオープニングセレモニーを八幡町コミュニティ協議会と共催で開催し、12日から一般貸し出しを開始した。その後、旧八幡町コミセンの解体工事を行った。新八幡町コミセンの建築、開館を通じて、八幡町地域のコミュニティづくりが活発に行われた。
		決算	142,908	

(2) 互いに尊重し認め合う平和な社会の構築

4	平和啓発事業 《総務費 ○平和・憲法啓発事業》 [市民活動推進課]	予算	4,161	非核都市宣言平和事業実行委員会とともに、夏季平和事業や平和の日イベントにおいて、パネル展や講演会などを開催し、戦争の悲惨さや平和の大切さを市民に発信した。また、非核都市宣言30周年事業として市内中高生12名による「武蔵野市青少年平和交流派遣団」を長崎市へ派遣し、平和祈念式典や青少年ピースフォーラムなどへ参加し、若い世代への啓発を行った。これらの事業を通して、青少年を含めた多くの市民の平和に対する意識の向上を図ることができた。
		決算	3,642	
5	男女共同参画施策の推進 《総務費 ○男女共同参画推進市民会議○むさしのヒューマン・ネットワークセンターの管理運営○男女共同参画施策事業》 [市民活動推進課]	予算	19,386	むさしのヒューマン・ネットワークセンターを直営化し、ヒューマン・ネットワークセンター運営協議会との役割分担を整理し、団体活動の自立を促進した。男女共同参画社会の実現に向けた各種講座を開催し、子育て世代や大学生の参加など、幅広い市民に理解を深めることにつながった。また、情報誌「まなこ」を発行し、広く意識啓発を図った。さらに男女共同参画推進委員会を設置し、第三次男女共同参画策定に向けて検討した。 ・講座実績：16企画25講座、延参加者数557人、託児59人。
		決算	17,373	

(3) 市民文化の醸成

6	第7回国際オルガンコンクール 《総務費 ○市民文化会館の管理運営》 [市民活動推進課]	予算	5,000	第7回武蔵野市国際オルガンコンクール組織委員会、(公財)武蔵野文化事業団と共催で、9月に予選、本選、入賞者披露演奏会を市民文化会館小ホールで開催した。出場者は120人の応募者からオーディションを通過した5カ国・15人。予選には東日本大震災の避難者の方を招待した。関連企画として街かどコンサートなどを6月から10月に開催し、市内全体で盛り上げるとともに来街者へのPRを行い、市民文化の醸成、魅力ある都市文化の発信、都市観光の推進に努めた。
		決算	5,000	
7	観光振興事業 《商工費 ○観光振興事業》 [生活経済課]	予算	33,671	観光推進機構の運営、吉祥寺薪能の支援、中央通り桜並木ライトアップを行った。 観光推進機構関連：観光推進委員会・各事業委員会の運営、観光情報の集積と発信、フィルムコミッション事業、平成25年度組織の法人化に向けた準備、吉祥寺駅まち案内所設置に向けた準備を行った。観光推進機構の組織力は着実に強化し、主催イベントが増加した。また、薪能、桜並木ライトアップは市外から集客できる観光資源として定着した。 ・観光推進機構運営委託30,828,000円、中央通り桜並木ライトアップ委託841,995円、吉祥寺薪能補助468,313円
		決算	32,138	

8	文化財保護普及事業 《教育費 ○文化財保護普及事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算	17,690	文化財の保存と活用を目的とし、文化財保護委員の会議の開催、民俗資料の調査収集・展示、埋蔵文化財の発掘調査などを行った。平成24年度は「井の頭池遺跡群発掘調査50周年記念講演会」を実施した。また発掘調査を1件行った。講演会では、講演のほか、土器・石器の展示や実物に触れるコーナーを設け、旧石器・縄文時代から中世・近世までの武蔵野の歴史について、理解を深めることができた。
		決算	16,301	

(4) 市民の多様な学びやスポーツ活動への支援

9	むさしのサイエンスフェスタ 《教育費 ○学級・講座開催事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算	1,584	大野田小学校を会場に市立小・中学校教員や地域ボランティア、地元の大学や企業等の協力を得て科学実験ブースを設置し、広く小・中学生に科学の不思議さ、面白さを体験する機会を提供し、学ぶ意欲の向上を図った。悪天候にもかかわらず、来場者は959名と大盛況であった。地域と学校教育が連携しながら、身近な科学実験を体験できるイベントとして定着してきている。
		決算	1,313	
10	土曜学校事業 《教育費 ○土曜学校事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算	3,548	学校の授業ではなかなか学べない体験を中心とした学習の場として、小・中学生を対象に、学校休業日の土曜日に体験活動を中心としたプログラムを実施した。平成24年度は14種類の講座を実施した（スポーツプログラム・武蔵野プレイス実施分を含む）。定員を超える応募も多く、学校の授業ではなかなか学べない体験を中心とした学習の場として認知されている。
		決算	1,598	
11	ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスの管理運営 《教育費 ○一般管理経費》 [生涯学習スポーツ課]	予算	524,096	「図書館」をはじめとした「生涯学習支援」、「市民活動支援」、「青少年活動支援」の4つの機能を併せ持つ活動支援型の複合施設として管理運営及び各種事業を行った。来館者数約151万人 図書館機能と青少年活動支援機能の連携事業やプレイスフェスタなど、複合機能施設としての特徴を生かした館内機能連携事業に取り組んだ。
		決算	498,476	
12	国体・障害者スポーツ大会推進事業 《教育費 ○国体・障害者スポーツ大会推進事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算	39,905	平成25年のスポーツ祭東京2013（第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会）の本市開催へ向けて競技別リハーサル大会を開催し、実施体制の検証・改善を行った。ラグビーフットボール競技：会期4月15日、観客1,673人、事業費3,508,672円。バスケットボール競技：会期8月11日～14日、観客3,243人、事業費4,521,524円。また、ノベルティグッズ配布等の広報活動を継続的に実施するとともに、花いっぱい運動等を実施して市民との協働による大会を推進した。
		決算	35,037	
13	図書館資料収集・保存 《教育費 ○図書館資料収集・保存事業》 [図書館]	予算	131,478	市立図書館の蔵書の増加により、図書資料の充実が図られた。 ・蔵書数 平成24年3月末 793,110冊 平成25年3月末 813,460冊 ・増減数 中央図書館：図書16,187冊、CD△521点、DVD242点 吉祥寺図書館：図書△2,196冊、CD64点 武蔵野プレイス：図書6,359冊
		決算	126,300	

14	児童を対象とした図書サービス 《教育費 ○読書指導事業○児童サービス事業》 [図書館]	予算 決算	10,587 9,515	「としょかんこどもまつり」、「どっきんどようび」、「むさしのブックスタート」、「読書の動機づけ指導」、「子ども文芸賞」等の事業を引き続き実施し、保護者や子どもたちに対する読書推進活動を行った。また、「武蔵野市子ども読書活動推進計画」に基づき、みどりのこども館での出張おはなし会と図書の貸出サービスを開始し、「配慮の必要な子どもたちへのサービス」の充実が図られた。
15	障害者サービス事業 《教育費 ○障害者サービス事業》 [図書館]	予算 決算	2,584 2,381	視覚障害者・身体障害者・高齢者などを対象にした音訳、点訳資料の作成、貸出、対面朗読などのサービスを行った。また、障害者用録音図書の電算システム化を進め、図書館ホームページで録音図書の検索、予約を行えるようになり、利便性が高まった。

(5) 地域の特性を活かした産業の振興

16	勤労者互助会補助 《労働費 ○勤労者互助会の運営補助》 [生活経済課]	予算 決算	20,913 20,913	市内の中小企業の事業主及び勤労者を対象に、福利厚生事業等を行う勤労者互助会へ補助金を交付した。勤労者互助会の主な事業内容は、福利厚生事業、共済金給付事業、退職金共済掛金補助事業、健康維持増進に係る事業等を行った。
17	認定農業者経営改善支援補助事業 《農業費 ○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,500 2,400	認定農業者の経営改善に要する事業費の一部を補助し、経営改善計画達成の支援を行った。補助制度を利用した農業の機械化等が行われ、作業効率の向上が図られた。 ・7件、事業費5,233,990円、補助金2,400,000円
18	こうのとりのベジタブル事業 《農業費 ○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	1,863 1,599	新生児が誕生した家庭に市内農産物の引換券（200円券10枚）を贈り、地産地消と食育の推進を図った。市内農産物を求める若い世代が増え、リピーターになっている。 ・1,440人へ14,400枚を配布、利用枚数6,128枚 （JA=2,489枚、アンテナショップ=2,201枚、直売所=1,438枚）1,546,900円 ・こうのとりのベジタブル券印刷費=52,132円
19	登録農地育成事業 《農業費 ○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,255 1,940	市と農地の保存協定を結んだ農家へ、農業近代化のための施設整備や農機具購入費用の一部の補助を行った。保存年限は10年、補助回数は2回。これにより、農地の保全が図られた。 ・5件、19,631㎡、事業費5,379,647円、補助金1,940,000円
20	市民農園維持管理事業 《農業費 ○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	10,765 10,520	園芸を通じて土に親しむとともに市民相互の交流と農地の保全のため、市民農園の維持管理を行った。現在、市内の市民農園9か所727区画で、市民の利用が図られている。
21	産業振興基礎調査 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	10,000 18,212	平成25年度策定予定の産業振興計画（仮称）の基礎調査として各種調査を実施した。 産業構造基礎調査（市民意向調査・事業所調査）及び来街者調査を実施し、計画策定のための基礎資料とするとともに現況整理及び地域構造分析を行った。なお、調査回答回収実績向上のため事業所調査及び来街者調査は、都の緊急雇用創出事業補助金を活用した。（補助金活用分9,392千円）

22	商工振興事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	24,990 26,456	次の事業に対し支出を行い、商業振興を図った。(団体への補助を除く) ・武蔵境ジャズセッションイベント事業(実施委託) 2月23日(土) 武蔵野スイングホール 来場者数…約480人 委託費989,100円 ・商店街装飾街路灯電気料補助事業 上半期…38商店会分7,294,000円、下半期…37商店会分6,172,900円 ・駅前周辺商業活性化事業(駅前イルミネーション) 12,000,000円 ジャズセッション、イルミネーションは商業活性化のみならず、市外から集客できる恒例行事として定着し、観光振興にも寄与している。また、商店街の街路灯はまちの賑わい創出及び防犯や交通安全に効果をあげている。
23	武蔵境活性化委員会補助事業(商工会議所補助事業) 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,840 2,840	「ほっとタウン武蔵境」をキーワードに活性化委員会により計画された事業のうち、ホームページや紙媒体広報物の作成など情報発信にかかる経費及び委員会運営費の補助を行った。委員会の活動は、武蔵境地区の活性化事業として年間を通じ、地元商店会・地元住民だけでなく、学生をはじめとした大学、病院、金融機関、生産農家など幅広い参加者を集めている。
24	Musashino ごちそうフェスタ 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	4,500 4,500	市民・来街者の方に武蔵野市の飲食・食品店での買い物を通して地元の「食」を知ってもらうためのイベントを実施した(主催:武蔵野商工会議所)。「飲食・食品店ガイドブック」を無料配布し、「物産・逸品市」11月23日(金・祝)、「武蔵野地粉うどん」の販売や「地産・地消 武蔵野の野菜」販売・PRを行った。特にガイドブックは市内飲食店をコンパクトにまとめた案内書として人気が高い。
25	商店会組織力強化のための企画提案型事業補助事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	6,000 4,043	商店会の振興を図り、もって地域商業の活性化に寄与することを目的として、武蔵野市内の商店会からの企画提案に基づき、商店会の組織力を強化するための方策を支援する事業を行う団体に対し、事業に係る経費の一部を補助した。商店会の自主的な発案を促し、「新・元気を出せ商店街事業」の対象とならない小規模な事業及び実験的な事業、または複数の商店会の共同事業の実施手段として活用されている。 ・事業実施件数:9件。
26	新・元気を出せ商店街事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	57,572 41,049	商店街支援事業として、東京都と連携した新・元気を出せ商店街事業を実施し、商店会の活性化を図った。 ・イベント事業 23件 37,645,000円 ・活性化事業 5件 3,404,000円
27	商店街装飾街路灯LED化事業 《商工費 ○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	0 2,548	環境問題への配慮と、防災や治安対策に積極的に取り組む商店会への支援として、商店会が水銀灯街路灯をLED化する経費について一部を補助した。2商店会で実施。実施後は電気使用量が1/2~1/4となり、環境負荷の軽減に大きく寄与している。
28	路線商業活性化総合支援事業 《商工費 ○路線商業活性化総合支援事業》 [生活経済課]	予算 決算	7,300 7,300	路線商店街において、複数の商店会が合同で実施するスタンプ事業の支援及び空き店舗を活用したコミュニティスタジオ事業を展開し、「にぎわい」、「ふれあい」の創出や商品の販売促進を通して、活力ある商店街づくりを支援した。スタンプ事業は中央地区の「むちゅースタンプ」、武蔵境地区の「ファミリースタンプ」として地域住民に定着し、各地区の商業振興に不可欠な存在である。

29	吉祥寺ウェルカムキャンペーン補助 《商工費 ○吉祥寺地区商業活性化事業》 [生活経済課]	予算 決算	6,650 6,650	吉祥寺の街をPRし、来街者の増加及び吉祥寺商業の活性化を目指す年2回（春秋）のキャンペーンのイベントに対して補助を行った。吉祥寺の恒例行事となり、安定した集客力を持つイベントとして定着した。 ・大吉祥抽選会（春） 3,325千円 ・アニメワンダーランド（秋） 3,325千円
30	吉祥寺アニメフェスティバル 《商工費 ○吉祥寺地区商業活性化事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,277 2,276	吉祥寺を中心としたアニメ産業が集積する本市の、産業振興及び都市観光推進を目的としてイベントを実施した。吉祥寺ウェルカムキャンペーンのアニメワンダーランドと合わせ、「アニメのまち吉祥寺」のイメージ定着に役立っている。 ・3月16日（土）スタジオディーン上映会、吉祥寺まちなかLIVE～アニメmix～、吉祥寺アニメーション映画祭受賞作品上映会 ・3月17日（日）親子プラモデル教室、ひつじのショーン・チェブラーシカ・やんやんマチコ撮影会&上映会、リーディングシアター
31	小規模企業者への補助事業 《商工費 ○利子補給等事業》 [生活経済課]	予算 決算	55,010 51,440	市内の小規模企業者やこれから創業する者に対し、融資のあつせん、利子および信用保証料の一部を補助を行い、中小企業の振興を図った。中小企業の資金調達の一助として認知され、利用件数が年々増加している。 ・小規模企業資金融資利子補給 1,759件 33,663,225円 ・小規模企業資金融資信用保証料 134件 12,393,715円 ・小規模事業者経営改善資金融資利子補給 81件 1,429,565円

(6) 都市・国際交流の推進

32	アメリカ・ラボック市との交流事業 《総務費 ○アメリカ・ラボック市との交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	2,964 2,097	「ラボック市ジュニア大使」として同市の中学生など16人・引率者4人が来訪し、市役所表敬訪問、都内見学、第三中学校での交流会、市内見学、文化体験（剣道等）やホームステイを行い交流を図るとともに本市の生徒にとっても国際理解を深める機会が得られた。 ・期間：6/5～6/11
33	中国との相互交流事業 《総務費 ○中国との相互交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	2,647 1,866	「青年の翼親善使節団」として中高生12人、引率者3人を中国に派遣した。期間中、月壇中学校訪問や北京首都博物館などの北京市内等の見学やホームステイなどを通じ現地の青少年との交流を図ることができた。今年度、周知と募集方法を見直した結果、定数を超える多くの応募者を得られた。 ・期間：8/22～8/29
34	韓国との相互交流事業 《総務費 ○韓国との相互交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	2,698 1,667	ソウル特別市江東区へ中高生12人、引率者3人を派遣した。期間中、韓国文化体験のほか、ホームステイを2泊に増やし実施するなど現地の青少年との交流が更に充実して図られた。 ・期間：7/26～7/30 忠州市から中高生11人、引率者2人が来訪し、都内見学、ホームステイなどを通じて交流を図ることができた。 ・期間8/3～8/6

35	ルーマニア・ブラショフ市との交流事業 《総務費 ○ルーマニア・ブラショフ市との交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	12,421 10,316	ブラショフ市に設置されている日本武蔵野センターを拠点に、日本語教室や日本文化紹介イベントなどを継続して開催した。交流20周年事業として、双方の市長の表敬訪問を行い、ジョルジュ・ディマ交響楽団の当時のコントラバスとヴァイオリン奏者の記念演奏会を開催するなど両市の交流を深めることができた。
36	国際交流協会事業 《総務費 ○国際交流協会運営補助金》 [交流事業課]	予算 決算	64,748 64,748	本市が直接実施していない、在住外国人に対する生活支援及び市民レベルでの国際交流活動などの多文化共生の地域づくりを進める（公財）国際交流協会を支援するため、運営補助金を交付した。
37	友好都市交流事業 《総務費 ○友好都市交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	6,170 3,235	国内友好都市間の交流ツアーや友好都市宿泊施設の利用助成を通じて、市民レベルでの交流促進を図った。今年度は南砺市、遠野市、酒田市への市民ツアーを行うとともに、安曇野市からの市民団を受入れ、南砺市からの要請で利賀村との交流40周年を記念し南砺市民交流団が定期交流外で来訪するなどの交流も行うことができた。
38	友好都市アンテナショップ運営事業 《商工費 ○友好都市アンテナショップ運営事業》 [生活経済課]	予算 決算	4,766 4,367	友好都市のPRや物産品の販売、観光情報の発信などのために設置したアンテナショップを拠点に、友好交流、友好親善及び地元商店街の活性化を図った。友好都市の新鮮な産品を扱う店として固定客を獲得し、友好都市のPR及び地元商店街の振興に寄与している。

(7) 災害への備えの拡充

39	建築物耐震性相談事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	1,260 605	建築物所有者に対し、耐震性等の構造に関する無料相談窓口を開設し、相談業務を行った。 ・窓口開設日数 20日 相談件数 40件
40	民間住宅耐震診断助成事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	8,100 13,691	市内住宅の耐震化を促進するため所有者が耐震診断を受ける場合に、その費用の一部を助成した。 ・木造96件、非木造2件、マンション3件、民間建築物16件
41	民間住宅耐震改修助成事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	33,000 55,104	市内住宅の耐震化を促進するため、所有者が市の定める診断機関による耐震診断の結果に基づき耐震改修を行った場合に、その費用の一部を助成した。平成24年度より、助成額を増額したこともあり制度利用件数が増加し、災害に強いまちづくりを進めることができた。 ・木造 55件 非木造 1件 マンション 0件
42	安全・賑わいのまちづくり促進型耐震助成 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	8,900 0	商業地の安全で賑わいのあるまちづくりを促進するため、商業地域などで昭和56年以前に建てられた民間非住宅建物のうち、新耐震基準を満たさないものに対し、耐震補強や建替えなどの費用の一部を助成する事業。商業地における耐震化推進に必要な制度であり、制度利用が図られるよう努めている。 ・相談件数 3件 ・助成件数 0件
43	緊急輸送道路沿道建築物耐震化推進事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	54,030 111,466	特定緊急輸送道路に指定された路線の沿道建築物の耐震化を促進するため、耐震化に要した費用の一部を助成した。 ・診断28件 設計1件 改修（建替え）1件

44	女性消防団員採用の推進 《消防費 ○一般管理経費》 [防災課]	予算 決算	794 476	女性の持つソフトな面を活かし、火災予防、啓発活動を中心とした地域の新たな担い手として女性消防団員を募集し、武蔵野市で初めての女性消防団員が3名入団した。出初式や秋・春の火災予防運動でアナウンスや市民への啓発活動を行った。
45	地域防災計画の見直し 《消防費 ○一般管理経費》 [防災課]	予算 決算	6,544 6,808	東日本大震災の経験を踏まえ、新たな課題に対応するため地域防災計画の見直しを行った。防災会議に地域防災計画修正案検討専門委員会を設置し検討するとともに、地域懇談会やパブリックコメントを実施し、広く市民の意見や提案を募った。
46	帰宅困難者対策等備蓄品の充実 《消防費 ○災害対策用器具 機材備蓄品整備》 [防災課]	予算 決算	6,340 6,207	帰宅困難者対策備蓄倉庫として武蔵野公会堂地下を改修し、帰宅困難者対策の備蓄を開始した。また、乳児や高齢者等の要援護者用備蓄品や医療救護所用備蓄品等の充実を図った。3月の帰宅困難者対策訓練では、これらの備蓄品を一時滞在施設へ搬送する訓練を実施した。
47	防災用高所カメラの移設 《消防費 ○防災施設整備事業》 [防災課]	予算 決算	4,000 1,597	吉祥寺駅周辺の状況等を映像により的確に把握するため、F&Fビルから吉祥寺駅北口前広場付近の民間ビル屋上に高所カメラを移設し、駅前滞留者・帰宅困難者対策等を強化した。3月の帰宅困難者対策訓練では、防災安全センターで状況を確認し、必要な指示を指令する訓練を行った。
48	災害用トイレの整備 《消防費 ○防災施設整備事業》 [防災課]	予算 決算	20,000 19,063	避難所の機能充実を図るため、第二小学校にマンホール式の災害用トイレ10基を設置した。関連工事として、周辺舗装や排水設備等の工事を実施した。
49	固定系防災行政無線の増設 《消防費 ○防災施設整備事業》 [防災課]	予算 決算	11,000 9,603	固定系防災行政無線の屋外スピーカー（拡声子局）を、横河グラウンド、スイングビル、吉祥寺西公園の3箇所に設置し、無線放送難聴地域の解消・改善を図った。

(8) 多様な危機への対応の強化

50	生活安全対策（ホワイトイーグル、ブルーキャップ、市民安全パトロール隊） 《総務費 ○生活安全対策事業》 [安全対策課]	予算 決算	99,081 98,912	ホワイトイーグル及び市民安全パトロール隊による安全パトロールを実施。ホワイトイーグルは車両3台・6人体制で、市民安全パトロール隊は第5期9年目を迎え、67人体制で運用した。ブルーキャップによるつきまとい勧誘等の指導は11人体制で運用した。12月には関係団体、市民と共に環境浄化推進特別パトロールを実施した。また、市民安全大会、生活安全会議及び生活安全対策推進協議会を開催した。2月に吉祥寺で発生した強盗殺人事件を受け、登校時の見回りを強化した結果、周辺住民の不安を解消するとともに、市内の治安向上と犯罪の未然防止に繋がった。
51	消費生活センターの管理運営 《商工費 ○消費生活センターの運営事業》 [生活経済課]	予算 決算	17,940 14,971	消費生活センターの管理運営、消費生活相談（969件）、消費生活講座（13回、うち1回見学会）、夏休み親子教室（3回）、消費生活展（10/12～13、武蔵野プレイス）、消費者団体への助成（1回）、悪質商法被害防止街頭キャンペーン（3/26、F&Fふれあいデッキこもれび）、その他消費者被害の未然防止啓発事業（出前講座14回）を実施した。また、消費者行政活性化補助金により、リーフレットの作成（56,500枚）及びFM放送（月～土、毎日2回）を実施し、消費者被害未然防止のための広報・周知活動を推進した。

IV 緑・環境

(1) 市民の自発的・主体的な行動を促す支援

1	市域 CO2 排出削減推進事業 (事業者の省エネ等支援事業) 《衛生費 ○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 1,700 決算 588	・中小規模事業者を対象に、設備の省エネ診断・改善アドバイスを実施した。2件 499,800円 ・中小規模事業者を対象に、省エネ設備改修費用の借入金利子の補助を行った。1件 88,669円
2	市域 CO2 排出削減推進事業 (むさしの環境フェスタ) 《衛生費 ○環境対策推進事業 ○ごみ減量と資源化推進事業 ○新武蔵野クリーンセンター(仮称)建設事業》 [環境政策課 ごみ総合対策課 クリーンセンター]	予算 5,102 決算 4,252	環境啓発イベントとして、むさしの環境フェスタを開催した。市民(団体)・事業者・小学生・行政等による環境に関する展示、クリーンセンター施設見学会、新クリーンセンター(仮称)パネル展示等を実施した。来場者数 1,500人 多くの市民に、エネルギーや廃棄物、緑等様々な環境に関するテーマについて、学習の場を提供し、啓発を図った。
3	二酸化炭素排出削減行動助成事業 《衛生費 ○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 18,010 決算 31,894	住宅用の太陽エネルギー利用設備・高効率給湯設備の設置に対する助成を実施し、家庭部門の二酸化炭素排出量の削減を図った。 ・助成対象設備及び助成件数 太陽光発電システム：139件 太陽熱温水器：2件 家庭用燃料電池コージェネレーションシステム：45件 ガス発電給湯器：1件
4	緑の表彰・顕彰制度 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 576 決算 0	緑の保護・育成に取り組み、地域に貢献している個人、市民団体、企業及び開発事業者等を顕彰することにより、緑化に対する意識向上及び緑化の推進、緑の保全による潤いのある快適な生活環境の保全創出を図った。 【内容】 平成24年度(第4回)は「みどりあふれるまち」をテーマに、小中学生のみどりのイラストを募集した。平成23年度(第3回)に実施した「建築行為に伴う敷地内緑化(小規模地区緑化)」の顕彰(パネル展示)と併せて、「全国都市緑化フェアTOKYO」の開催期間中、武蔵野市の自治体ブース内で展示した。 都市の緑化、緑と花に関する全国規模のイベントである都市緑化フェア内に展示することで、広く多数の来場者へ、緑化に貢献する多くの市民を顕彰することで、緑化意識の高揚が図られた。

5	緑ボランティア団体事業助成 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	3,600 2,992	市立公園等を拠点として緑の保全、緑化推進及び公園等の維持に関する活動を行っている緑ボランティア団体に対し、その事業経費の一部を助成し、地域や団体の活動の発展を促すとともに、緑豊かな生活環境の保全創出を図った。 平成24年度末23公園で21の緑ボランティア団体が活動しており、季節の草花が絶えない花壇の維持や、公園の美化清掃、毎年100名以上参加のイベントの開催、地域の目による防犯など、多面的効果とともに、地域コミュニティの活性化にも寄与した。
6	都市緑化フェア 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	10,000 13,786	第29回全国都市緑化フェアTOKYOの、都内6箇所メイン会場の一つである井の頭恩賜公園について、地元自治体として、三鷹市とともに東京都と共催にて実施した。 6会場合計で、目標入場者数500万人を超える約516万人の来場をいただくとともに、井の頭恩賜公園でも目標を上回る107万人の来場者を迎え、大都市ならではの緑化推進、緑化意識の高揚、知識の普及を図り、緑豊かな潤いのある、まちづくり推進へ寄与した。 【内容】 多摩産材プランターを活用した吉祥寺駅周辺の修景 三鷹駅北口「独歩の碑」エリアの記念修景 市独自事業「MUSASHINO GREEN2012」(MUSIC LIVE、緑のワークショップ)の実施 自治体ブース運営 関連番組制作 「みどりと公園のGUIDE BOOK」の改訂

(2) 環境負荷低減施策の推進

7	新たなエネルギー活用検討事業 《衛生費 ○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	10,000 8,640	エネルギー事業者、市民、学識経験者、行政等で構成する委員会を開催した。既存市街地であり、エネルギー消費型都市である本市において、持続可能な社会を構築するために、「基礎自治体として何ができるのか、そして何をすべきか」をテーマに、公共課題や目指すべきあり方、実現のための課題等の明確化を図った。
8	太陽光発電システムの設置 《衛生費 ○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	30,000 22,050	再生可能エネルギーの普及や環境教育への活用、公共施設の防災機能の強化を図るため、第五中学校に太陽光発電システム(設備容量30kW)を設置した。 公共部門の率先的な取組みとして、公共施設の再生可能エネルギーの導入を推進した。
9	LED街路灯事業 《土木費 ○街路灯維持管理》 [道路課]	予算 決算	10,000 9,608	環境負荷の低減及び省エネ、省資源化を図るため、平成24年度～平成28年度までの5か年計画で、小型水銀灯式街路灯320基をLED化を予定している。平成24年度は吉祥寺本町21基、中町2基、御殿山4基、西久保25基、境7基、境南町6基、計65基のLED化を行った。
10	環境舗装事業 《土木費 ○環境舗装事業》 [道路課]	予算 決算	188,700 165,985	生活道路改修の際に透水性舗装を施工し、雨水の流出抑制や地下水涵養を行った。また、試験施工として道路集水桝雨水浸透化工事を行った。 ・13路線 施工延長3,061m L形工1,345m 舗装面積8,306㎡

(3) 「緑」を基軸としたまちづくりの推進

11	公園等建設事業 (千川上水整備事業を除く) 《土木費 ○公園等建設事業》 [緑のまち推進課]	予算 1,161,875 決算 840,092	吉祥寺の杜 宮本小路公園の用地買収及び桜堤二丁目防災広場新設、三谷公園拡充他7か所の改修により、1,703㎡の公園拡充と13,665㎡のリニューアルを実施した。緑の拡充とともに、オープンスペースの確保から、魅力的で安全安心の、潤いのある都市環境推進へ寄与した。 ・主な新設、改修等 三谷公園拡充1,422㎡、桜堤二丁目防災広場新設(平成25年3月31日供用開始)281㎡、上水北公園改修605㎡、西久保公園改修9,591㎡、玉川上水公園改修484㎡、むらさき公園改修204㎡、さくら見公園改修610㎡、久保公園改修2,071㎡、中央通り東公園改修100㎡ ・用地購入 吉祥寺の杜 宮本小路公園新設用地 950㎡ 公募市民を含め総勢21人で6回のワークショップを開催し、基本プランを策定した。
12	千川上水整備事業 《土木費 ○公園等建設事業》 [緑のまち推進課]	予算 28,000 決算 27,090	次年度整備に関する実施設計と、10か年計画による千川上水整備事業の初年度として約70mの整備を行った。 隣接する道路空間の機能確保とともに、身近な自然とのふれあい、水と緑のネットワークの拠点として、より魅力ある空間の創出が図られた。 【内容】 千川上水整備設計業務委託(平成25年度事業の詳細設計) 千川上水整備工事(こうしん橋公園前の護岸整備、延長70m)
13	未来へ育て! 苗木すくすく大木計画 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 1,550 決算 833	緑豊かな都市環境の創出を目指し、将来大木となり得る樹種を「一般配布」、「新築記念樹」と題し、様々な機会を捉え、配布方法及び対象を工夫して相乗的な緑化推進、啓発効果を図った。減少傾向にある民間の緑を育み、緑の質を高め、市民が「緑は市民の共有財産」を体現する契機になっている。 ・配布実績 新築記念樹 85本(6月、9月、12月、3月)、 一般配布 107本 計192本の苗木を市民に配布し、育ててもらおう事で、緑化に対する意識向上及び民有地の緑被率増加等の効果が期待できる。 (配布樹種:ハナミズキ、コブシ、シマトネリコ、イロハモミジ、ヒメシャラ)
14	二俣尾・武蔵野市民の森の充実と奥多摩の森林整備 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 9,802 決算 6,964	自然環境の恩恵を享受しながら活動する都市の責務として、東京の森林(緑)が持つ水源かん養、地球温暖化防止等の多面的機能に着目しながら、自然体験学習を進めるとともに、様々な主体と連携することで市域を超えた森林保護・育成等を推進した。 多摩地域の森林の持つ公益的機能の充実、及び活用から、自然環境、自然保護における関心を高め、持続可能な都市実現に寄与した。 【内容】 二俣尾・武蔵野市民の森の森林整備等委託:「二俣尾・武蔵野市民の森に関する協定書」に定める対象森林区域7.02haの整備、森の市民講座の実施<4回> 森林整備啓発事業(自然観察会)の実施<5回> 二俣尾自然体験館の維持管理 奥多摩・武蔵野の森の森林整備委託:「奥多摩・武蔵野の森に関する森林整備協定書」に定める協定区域の一部3.3haの整備

15	保存樹林等の指定 《土木費 ○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	10,243 9,444	民有地の緑を守る一環として、環境緑地や保存樹林等指定制度を設け、所有者の適正な維持管理を支援するため、助成金の交付、樹木医の派遣、倒木保険への加入等を行った。「緑は市民の共有財産」を前提に減少傾向の続く民有地の緑に対し、市が一定の関与も継続することで既存の緑の保全、育成に寄与している。 平成25年3月末時点において、保存樹木総数751本、生垣総数130箇所・総延長3,733m、保存樹林総数3箇所・総面積6,861㎡の樹木等が保存された。また、5箇所の樹木診断を実施した。
16	仙川水辺環境整備事業 《土木費 ○仙川水辺環境整備事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	140,692 66,548	「仙川リメイク」に基づき、旧河川の埋戻し工事、既整備区間の維持管理、次年度に実施予定の設計業務委託を行った。東京都をはじめ関係機関との調整が図られ、身近な自然の回復と保全、良好な水辺、親水環境の創出に寄与した。 【内容】 仙川水辺環境整備工事（施工延長82.5m、桜二の橋から桜堤公園までの旧河川埋戻し） 仙川水辺環境整備業務委託（平成25年度施工予定の桜堤公園上流部の護岸整備及び導水システムの基本設計業務を委託する） 仙川緑地外1箇所維持管理委託（仙川緑地及び整備済み河川の維持管理作業委託）

(4) 循環型社会システムづくりの推進

17	クリーンセンター施設改修等工事 《衛生費 ○クリーンセンターの管理運営》 [クリーンセンター]	予算 決算	415,115 399,751	安全で安定的なごみ処理を図るため、焼却施設・粗大ごみ処理施設等の基幹設備の法定点検及び定期点検整備工事と施設や部品の劣化状況を見ながら計画的に改修工事を実施した。
18	新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業 《衛生費 ○新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業》 [クリーンセンター]	予算 決算	72,693 67,560	施設基本計画と事業実施方針に基づき、総合評価一般競争入札により事業者選定手続を進め、落札事業者を決定した。第二期施設周辺設備協議会においてエコプラザ（仮称）や周辺整備の検討を進め、報告書を取りまとめた。また、生活環境影響調査書の縦覧・説明会開催、土壌汚染調査のほか、環境啓発事業を実施した。
19	小規模事業者に対する事業系ごみの排出指導事業 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	7,788 7,743	市内約4,700の小規模事業者に対して、事業系ごみを家庭ごみとして排出している事業者の指導強化を実施し、適正排出率の向上を図った。ルール違反165件（年間）。適正排出率は44%（平成19年度）から80.5%（平成24年度調査終了時）へ向上した。
20	レジ袋削減の推進 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	2,221 2,320	レジ袋削減を推進するための協定を結んだ市内スーパー12社やコンビニでキャンペーン、市内各商店街でフラッグ、ポスター掲示を行うなど、全市的にレジ袋削減の取組みを行うことにより、市民の環境に対する意識の変化、ライフスタイルの変化を促した。
21	剪定枝葉資源化事業 《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	13,136 12,667	一般廃棄物として焼却されている剪定枝葉の一部を堆肥化して有効活用するとともに、燃やすごみの減量を図った。 ・搬入量 252.55 t

22	<p>集団回収事業</p> <p>《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]</p>	<p>予算 42,475</p> <p>決算 42,792</p>	<p>集団回収事業によって、資源の有効活用、ごみの減量及びごみ問題に対する市民の関心を高めることに取り組んだ。</p> <p>・184団体 回収量 3,509 t</p>
23	<p>ごみ減量協働事業</p> <p>《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]</p>	<p>予算 1,700</p> <p>決算 1,450</p>	<p>フリーマーケット、青空市、分別案内所等のごみ減量施策を市民団体と協働事業として実施することにより、市民への更なる啓発を行い、ごみ減量の推進を図った。</p>
24	<p>プラスチック製容器包装（硬質プラ）資源化事業</p> <p>《衛生費 ○ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]</p>	<p>予算 2,423</p> <p>決算 1,795</p>	<p>分別収集したプラスチック製容器包装のうち、小規模事業者に代わって市が再商品化の義務を負う分について資源化处理を行う事業を実施した。工程を市民に見学してもらうことで資源化推進の意識向上を図る。24年度は「夏休みごみ探検隊」参加者40名、「ごみの行方を知るツアー」参加者18名が見学した。</p>
25	<p>塵芥処理事業（収集委託料）</p> <p>《衛生費 ○塵芥処理事業》 [ごみ総合対策課]</p>	<p>予算 1,097,477</p> <p>決算 1,092,063</p>	<p>平成21年度から、可燃・不燃ごみの一般収集業務を完全委託化するとともに、不燃ごみの収集回数を見直し、収集効率を向上させた。特別収集については平成23年度に狭あい対象路線を完全委託化し、平成24年度にふれあい訪問収集についても一部委託化を実施した。</p>

(5) 生活を取り巻く様々な環境の変化に伴う新たな問題への対応

26	<p>害虫等対策・狂犬病予防事業</p> <p>《衛生費 ○狂犬病予防事業》 [環境政策課]</p>	<p>予算 5,439</p> <p>決算 4,701</p>	<p>害虫等対策については、スズメ蜂等駆除187件、カラスの巣の撤去等31件、ネズミ侵入防止対策説明会等3回、ネズミ侵入防止対策支援事業13件を実施した。狂犬病予防事業に関しては、犬の新規登録342件、再交付40件、注射済票交付3,562件（うち再交付4件）を行い、マナープレートの配布、動物愛護展や犬のしつけ方教室の開催などを実施し、動物愛護啓発の推進、飼い主のマナー向上等を図った。</p>
27	<p>公害対策・調査・処理</p> <p>《衛生費 ○公害対策事業》 [環境政策課]</p>	<p>予算 17,444</p> <p>決算 13,929</p>	<p>常時監視と随時調査による環境状況の把握と確認、工場や指定作業場に対する指導、その他公害要因対象者への指導等を行った。地域猫対策の協働事業に対して補助を行った。公害苦情相談の受付と対応を通じて、公害発生の未然予防等、市内環境の保全を図った。</p> <p>・苦情の受付件数 計498件（大気47件、騒音100件、振動12件、悪臭18件、その他321件）</p>

28	放射線に関する事業 [市民活動推進課 環境政策課 ごみ総合対策課 クリーンセンター 緑のまち推進課 高齢者支援課 保育課 教育企画課 教育支援課 生涯学習スポーツ課 工務課]	予算	31,418	空間放射線量測定、土壌中放射性物質分析調査、水質検査、学校・保育園給食食材放射性物質検査などを実施した。市内公共施設 51 か所の残地堆肥について、放射線物質測定を行い、暫定許容値以下を確認後、バイオマス燃料としてリサイクル処理を行った。 安全・安心を図るため、測定を確実かつ継続的に実施し、それらを市民に情報提供した。
		決算	27,205	

V 都市基盤

(1) 地域の特性に合ったまちづくりの推進

1	建築物の高さの最高限度の導入 《土木費 ○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算	4,820	都市計画マスタープランにおいて住環境の保全や景観の観点から建築物の高さの最高限度の導入を検討することとし、具体化を進めた。平成 24 年 5 月 15 日に、高さ制限を導入するにあたっての市の基本的な考えを示した基本方針を公表し、平成 24 年 10 月 15 日に、都市計画素案を市報特集号で公表するとともに、4 回の説明会を行い、意見募集を実施した。 平成 25 年 5 月に都市計画原案、平成 25 年 11 月に都市計画案を公表し、平成 26 年 1～2 月に都市計画決定を予定している。
		決算	4,326	
2	景観道路事業 《土木費 ○景観道路事業》 [道路課]	予算	293,200	景観整備路線事業計画の早期事業化路線について、電線共同溝の設置や街路築造工事等を行った。 ・電線共同溝 市道第 2 号線：施工延長 300m ・街路築造工事 市道第 308 号線：整備延長 325.2m、舗装面積 3,469.4 m ²
		決算	249,329	

(2) 都市基盤の更新

3	橋りょう新設改良事業 《土木費 ○橋りょう新設改良事業》 [道路課]	予算	31,000	平成 23 年度に策定した橋りょう長寿命化計画に基づき、老朽化した大橋の表面補修及び主桁の補強工事を行った。劣化の進行を予測して損傷が深刻化する前に対応する「予防保全型管理」を行い、橋りょうの長寿命化、安全性の確保、コストの標準化及び縮減を図る。 ・橋りょう補修 1 箇所(大橋)
		決算	1,974	

(3) 利用者の視点を重視した安全で円滑な交通環境の整備

4	三鷹駅北口駅前広場総合案内板の設置 《土木費 ○交通バリアフリー事業》 [まちづくり推進課]	予算	4,100	公共サインガイドラインに基づき、三鷹駅北口駅前広場に点字・音声案内を備えユニバーサルデザインに対応した総合案内板を設置した。重複する案内サインを統合整理することで、市民や来街者によりわかりやすい案内・誘導の充実を図った。
		決算	5,208	

<p>5 放置自転車対策業務</p> <p>《土木費 ○自転車対策事業》 [交通対策課]</p>	<p>予算 208,356 決算 207,348</p>	<p>放置防止指導、撤去、保管及び返還業務を統合し、三駅周辺を中心に放置防止を行った。 駐輪場の整備、放置防止指導員の配置等により放置自転車の低減を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放置自転車台数（10月平日晴天11時） 吉祥寺駅周辺： <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度 201台⇒平成24年度 137台（▲64台） 三鷹駅周辺： <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度 60台⇒平成24年度 59台（▲1台） 武蔵境駅周辺： <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度 103台⇒平成24年度 116台（+13台） 市内放置合計： <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度 364台⇒平成24年度 312台（▲52台）
<p>6 ムーバス運行事業（ムーパーク駐車場撤去を除く）</p> <p>《土木費 ○ムーバス運行事業》 [交通対策課]</p>	<p>予算 91,876 決算 75,198</p>	<p>市内にあるバス交通空白・不便地域の解消を図るため、ムーバスを運行した。 運行時間の延長、交通ICカードの導入により利便性の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムーバス利用実績 年間乗客数／1日平均乗客数 総合計 2,650,222人／7,267.6人 吉祥寺東循環 411,301人／1,126.9人 吉祥寺北西循環 613,303人／1,680.3人 境南東循環 206,834人／566.7人 境南西循環 265,832人／728.3人 三鷹駅北西循環 283,906人／777.8人 境西循環 277,204人／766.1人 境・東小金井線 186,791人／511.8人 三鷹・吉祥寺循環 274,707人／752.6人 境・三鷹循環 130,344人／357.1人 <p>旧ムーパークを7月31日に閉場したが、10月1日より新ムーパークを開設し事業の継続を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ムーパーク」利用実績 【旧ムーパーク】 ※平成24年7月31日閉場 ムーバス2号路線吉祥寺北西循環 28番ポケット広場バス停隣接 収容台数:71台 利用台数:7,682台(H24.4.1~H24.7.31) 1日平均:63.0台(土日休1日平均:92.1台) 【新ムーパーク】 ※平成24年10月1日開設 ムーバス6号路線三鷹・吉祥寺循環 6番武蔵野税務署南バス停隣接 事業主体:吉祥寺ムーバスアンドパーキング事業運営協議会 収容台数:40台 利用台数:9,707台(H24.10.1~H25.3.31) 1日平均:53.3台(土日休1日平均:59.5台)

(4) 道路ネットワークの整備

<p>7 道路新設改良事業</p> <p>《土木費 ○道路新設改良事業》 [道路課]</p>	<p>予算 203,851 決算 234,450</p>	<p>経年劣化した主要道路等を改修整備した。市道第240号線については、2か年での整備が完了し、交差点の線形改良及び歩道改修等、高齢者や誰もが歩いて楽しい道づくりを目指し安全性の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5路線施工延長2,390m L形工1,455m 舗装面積13,848㎡
--	----------------------------------	---

8	都市計画道路3・4・27号線事業 《土木費 ○都市計画道路3・4・27号線事業》 [道路課]	予算 決算	15,829 0	JR中央本線（三鷹駅～立川駅間）他連続立体交差事業により高架化が完了し、南北一体のまちづくりに向け、用地取得を進めている。 H24年度 用地買収：0㎡、整備：0㎡ ・用地買収進捗状況 用地買収率：約70%（665㎡/951㎡）
9	都市計画道路7・6・1号線（御殿山通り）事業 《土木費 ○都市計画道路7・6・1号線事業》 [道路課]	予算 決算	236,070 130,881	景観整備路線事業計画の早期事業化路線である玉川上水沿いの三鷹橋～むらさき橋間について、電線共同溝修正設計や測量、費用便益分析等を行った。 ・H24年度 用地買収：112㎡ ・用地買収進捗状況 用地買収率：約97%（2,105㎡/2,162㎡）
10	区画道路整備事業 《土木費 ○区画道路整備事業》 [道路課]	予算 決算	32,750 27,098	事業着手済みである区画道路の用地測量、用地買戻し、用地買収に伴う仮整備等を行った。 ・用地買戻し 市道第107号線：4㎡ 市道第308号線：24㎡
11	狭あい道路拡幅整備事業 《土木費 ○狭あい道路拡幅整備事業》 [道路課]	予算 決算	49,658 49,096	安全で快適なまちづくりを推進するため、特定行政庁と連携しながら狭あい道路の拡幅整備を行った。 ・整備延長：2,417m、整備面積：841㎡

(5) 下水道の再整備

12	臭気対策支援事業 《下水道事業会計 ○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	1,500 2,000	悪臭の原因となる地下排水槽（ビルピット）の改修改善に係る費用の一部を助成し、臭気の軽減を図った。 ・助成件数4件
13	公共下水道管きょ現況調査・清掃委託 《下水道事業会計 ○下水道維持管理事業》 [下水道課]	予算 決算	50,000 43,101	道路陥没事故や管きょ閉塞による悪臭等を未然に防ぐため、下水道本管、取付管の損傷や土砂等の堆積物の調査及び清掃を行った。 ・管きょ等清掃7,306m、管きょ等調査76,799m
14	雨水浸透施設助成事業 《下水道事業会計 ○下水道維持管理事業》 [下水道課]	予算 決算	20,000 20,886	雨水浸透施設を設置する者に対して助成金を交付し、雨水浸透施設の設置促進を通じ治水、利水、水循環の推進を図った。 ・助成件数64件
15	下水道建設負担金 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	47,581 52,589	本市が排出する汚水の処理を依頼している東京都の水再生センター及び関連下水道幹線等の施設に係る建設費を負担した。
16	公共下水道建設事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	95,100 82,904	都市計画道路7・6・1号線及び都市計画道路3・4・24号線等の道路整備に合わせ、下水道管きょを築造した。

17	合流式下水道改善事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	1,699,265 1,360,079	善福寺川流域の水環境等の向上並びに下流域の浸水被害の軽減を図るために、合流式下水道改善施設を整備した。吉祥寺東町四丁目地内の1,200㎡の貯留槽は竣工し、吉祥寺東町一丁目地内の8,500㎡の貯留槽は、本体工事に着手した。神田川排水区については、基本・実施設計を完了した。
18	雨水貯留浸透施設設置事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	57,000 57,807	大雨による浸水被害の軽減を図るために、第三小学校に500㎡の雨水貯留浸透施設を設置した。これにより市内11小中学校に設置が完了した。
19	雨水貯留施設設置事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	38,500 35,327	吉祥寺北町地区の大雨による浸水被害の軽減を図るために、北町保育園の建替えに合わせ雨水貯留施設の設置を行う。平成25年度の着手を目指し、実施設計を行った。
20	公共下水道耐震化事業 《下水道事業会計 ○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	30,000 28,875	市内の下水道の耐震化については、平成17～21年度にかけて実施済みであるが、現場条件等により、未施工箇所がある。未施工箇所の耐震化については、平成24～26年度の3ヵ年で計画しており、24年度は、73箇所の耐震化を実施した。

(6) 住宅施策の総合的な取組み

21	分譲マンション実態調査事業 《土木費 ○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	3,600 3,465	管理組合等の課題についてアンケート等により状況を把握し、施策の方向性を検討した。 ・アンケート 管理組合対象396件、回答168件、回答率42.4% 居住者対象1500人、回答596人、回答率39.7%。
----	---	----------	----------------	---

(7) 三鷹周辺まちづくりの推進

22	三鷹駅北口まちづくり構想の検討 《土木費 ○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	4,520 2,310	三鷹駅北口周辺地区全体に及ぶ適切な土地利用等、幅広い視点から将来的なまちづくりの方針について検討していくきっかけとして、三鷹駅北口地区まちづくりシンポジウム実行委員会と連携して、「三鷹駅北口のまちづくりを考える意見交換会」を2回開催した。意見交換会に出席した住民、商工業者等から出されたまちづくりにおける課題や将来イメージなどを意見集として取りまとめた。
23	鉄道連続立体交差事業 《土木費 ○鉄道連続立体交差事業》 [まちづくり推進課]	予算 決算	496,424 459,842	東京都に対し鉄道連続立体交差事業負担金を支出した。 西武多摩川線：平成18年12月に高架化工事完了。 JR中央本線：三鷹～国分寺間高架化工事のうち、下り線は平成19年7月に完了。上り線は平成21年1月に完了。国分寺～立川間高架化工事のうち、下り線は平成21年1月に完了。上り線は平成22年11月に完了。平成25年1月に駅舎工事等武蔵境駅周辺の事業は完了。側道のうち、残る1路線（武鉄3）は平成25年度完了予定。鉄道連続立体交差事業（三鷹～立川間）全体としては、平成25年度末に事業完了予定。 これにより、誰もが安心して通行できる歩行空間の確保や、南北一体となったまちづくりの推進を図ることができた。

24	吉祥寺方式物流対策事業 《土木費 ○吉祥寺方式物流対策事業》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 1,351 決算 1,310	吉祥寺のまちづくりの一環として立ち上げた吉祥寺方式物流対策委員会の自立と継続的な活動に向けて運営支援を行い、委員会を4回開催した。また、地元事業者等と協働で荷さばきルール徹底週間を継続的に実施しており、平成24年度も3回実施した。このことにより、吉祥寺地区における荷さばき作業による路上駐車車両が削減され、吉祥寺の特徴である回遊性が向上した。
25	吉祥寺駅南北自由通路整備事業 《土木費 ○吉祥寺駅南北自由通路整備事業》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 82,000 決算 68,865	まちの軸となる吉祥寺駅南北自由通路の拡幅・直線化の整備を行うため、JR東日本、京王電鉄と協定を締結し、整備に着手した。
26	吉祥寺地区まちづくり検討調査 《土木費 ○吉祥寺地区まちづくり検討調査》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 4,000 決算 3,990	JR・京王吉祥寺駅改良に併せ、駅周辺の交通体系の検討を行った。また、北口駅前広場の整備プラン(案)を策定した。吉祥寺東部地区におけるまちづくりを推進するため、市有地を含む地区の在り方について検討を行った。
27	武鉄中付第1、第2、第3号線整備事業 《土木費 ○武鉄中付第1、第2、第3号線整備事業》 [道路課]	予算 230,160 決算 257,233	JR中央本線(三鷹駅～立川駅間)他連続立体交差事業にあわせ、電線共同溝の設置やまちづくり側道の街路築造を行い、武鉄中付第1号線及び第2号線の事業を実施した。 ・電線共同溝：武鉄中付第1号線、第2号線、第3号線 ・街路築造：武鉄中付第1号線及び第2号線
28	都市計画道路3・3・23号線事業 《土木費 ○都市計画道路3・3・23号線事業》 [武蔵境開発事務所]	予算 13,600 決算 12,634	武蔵境駅北口の歩行者の安全や円滑な交通処理の実現と武蔵境らしい駅前空間を創出するため、基本計画に基づき、警視庁等関係機関との協議、調整を行うと共に、用地測量、電線共同溝予備設計、道路詳細設計を行った。
29	武蔵境地区区画道路整備事業 《土木費 ○武蔵境地区区画道路整備事業》 [武蔵境開発事務所]	予算 49,500 決算 13,326	武蔵境駅の東西地区の適正な土地利用の促進と防災機能の向上を図るため、西区画については、市道第291及び292号線の交通開放に向けた説明会の開催及び交差点改良等の工事を行った。また、東地区については、事業推進を図るため周辺現況測量及び市道第263及び268号線の用地測量を行った。西区画については、市道第291号線及び292号線の交通開放に向けた準備が整った。
30	武蔵境駅舎周辺環境整備事業 《土木費 ○武蔵境駅舎周辺環境整備事業》 [武蔵境開発事務所]	予算 237,300 決算 101,575	回遊性が高く、南北一体を象徴し、自然と調和する駅前空間を創出する事業。平成25年度中の完成を目指し、武蔵境駅舎・広場・街づくり協議会(駅場協)等の市民意見が反映された武蔵境駅舎連続施設(北側)新築工事に着手した。また、駅場協への側面支援を行った。

31	都道 123 号線拡幅整備事業 《土木費 ○都道 1 2 3 号線 拡幅整備事業》 [武蔵境開発事務所]	予算	261,650	東京都の「新みちづくり・まちづくりパートナー事業」による都道 123 号境調布線の拡幅整備として、道路拡幅予定地の買取に 関わる土地鑑定を行なうとともに、電線共同溝の詳細設計を行った。 市道第 291 号線及び 292 号線との同時交通開放に向けた準備が整った。
		決算	14,291	

(8) 安全でおいしい水の安定供給

32	配水管網整備の推進 《水道事業会計》 [工務課]	予算	464,280	災害時にも安全でおいしい水の安定供給ができるように、配水管の新設や老朽管の更新等配水管路の耐震化を図り、24 年度末の耐震化率が 42.1%と前年度に比べ 1.3 ポイント上昇した。 ・工事内容 配水管新設工事 (5 件) 835m 配水管(鉄管)改良工事 (6 件) 1,158m 配水補助管改良工事 (15 件) 2,629m 配水管受託工事 (3 件) 238m
		決算	368,344	
33	浄水場・取水施設改良工事 《水道事業会計》 [工務課]	予算	132,100	円滑で効率的な水運用のため、経年劣化した浄水場施設を計画的に維持・更新するとともに、安定的な取水量を確保するため深井戸の更生工事を行い、安全でおいしい水の安定供給を図った。 ・工事内容 第一浄水場監視用伝送装置盤取替工事 第二浄水場配水ポンプモータ及び付帯設備改修工事 8 水源更生工事 8 水源発電機設置工事 外 12 件
		決算	136,335	

VI 行・財政

(1) 市政運営への市民参加と多様な主体間の柔軟な連携と協働の推進

1	市制施行 65 周年記念シンポジウム 《総務費 ○企画調整》 [企画調整課]	予算	2,333	市制施行 65 周年を迎えるにあたり、市民の市政への関心を更に高めるとともに、市民文化を醸成するため、シンポジウムを開催した。各界の著名人(市民)に、吉祥寺を中心に、武蔵野市というまちの魅力を語っていただくパネルディスカッション等を実施した。 ・内容 むさし野ジュニア合唱団による合唱、パネルディスカッション「文化が生み出す都市の魅力とは」、JAZZ コンサート ・来場者 340 人
		決算	1,417	
2	市民協働推進事業 《総務費 ○NPO活動促進》 [市民活動推進課]	予算	2,891	平成 24 年 3 月に策定した市民活動促進基本計画に基づき、市民協働推進事業及び職員向け研修を実施した。市民及び市民活動団体等向けの講座等事業を 5 種類・9 回、職員向け研修を 1 回実施した。市民協働推進情報誌を 3 回発行し、市民活動団体等に送付した。市民、市民活動団体、職員の市民活動や協働に関する意識を高めるきっかけとなった。
		決算	2,434	

(2) 市民視点に立ったサービスの提供

3	電子自治体共同運営 《総務費 ○契約事務○内部統合情報システム》 [情報管理課 管財課]	予算	11,566	東京都と市区町村の共同運営による電子申請サービス及び電子調達サービスを利用し、電子申請については、自転車安全利用講習会、誕生記念樹、歯科健康診査、胃がん検診、乳がん検診、骨粗しょう症予防教室、モーニングコンサートの申込など、携帯電話を含む18の手続を電子申請化し、申請手段を多様化することにより利便性の向上を図り1,545件の申請があった。電子調達については、入札対象範囲を順次拡大し、工事137件、委託224件、物品84件、計445件(不調含む)の電子入札を行い、入札件数全体の89.4%に及んでいる。
		決算	11,451	

(3) 市民に届く情報提供と市民要望に的確に応える仕組みづくり

4	市勢要覧の発行 《総務費 ○広報活動》 [秘書広報課]	予算	4,299	市政及び地域の様子など、市を網羅的に紹介する市勢要覧を5,000部発行し、市制施行65周年記念イベント参加者への贈呈、市役所窓口での一般配布を行った。併せて、電子ブック版(日本語・英語)を作成しホームページに掲載した。市民及び市外の方の市への理解を向上する資料として発行することができた。
		決算	4,295	
5	ホームページの運営 《総務費 ○広報活動》 [秘書広報課]	予算	12,800	トップページ等のスマートフォン対応に続き、市政資料の検索機能・リンク機能を付加するなど、継続的に改善を行い、閲覧者の利便性が向上した。併せて、高齢者や障害者などに配慮したアクセシビリティ方針の策定に向けた調査を実施した。
		決算	11,675	
6	わかりやすい広報の研究 《総務費 ○広報活動》 [秘書広報課]	予算	360	庁内研究チームを設置し、広報・広聴の連携強化、職員の広報力の向上、ソーシャルメディアの広報・広聴への活用の3つの目標について調査研究を行った。研究結果を踏まえ、ツイッターでの情報提供の拡大など、実務上の進捗を図ることができた。
		決算	100	
7	インターネットによる議会中継(録画による配信等) 《議会費 ○議会運営》 [議会事務局]	予算	6,242	広く市民に議会審議の様相を伝えるため、本会議、予算・決算特別委員会のインターネット中継を行った。 ・アクセス数 11,912件(うち録画 2,991件)
		決算	5,695	
8	議会だより発行 《議会費 ○議会だより発行》 [議会事務局]	予算	5,566	年4回発行(定例会4回、4色刷、延べ22頁/333,400部印刷、延323,535部全戸配布)
		決算	3,952	
9	市民と市長のタウンミーティング 《総務費 ○広聴活動に要する経費》 [市民活動推進課]	予算	1,149	市民が主役の市政を進めるため、7回のタウンミーティングを開催した。地域の課題や市政全般について意見交換を行う、地域別タウンミーティングをコミュニティ協議会と共催で3回、テーマ別タウンミーティングは、シニア世代、学生、外国人を対象にそれぞれ開催した。他に境南ふれあい広場公園にて青空タウンミーティングを開催した。
		決算	848	

(4) 公共施設の再配置・市有財産の有効活用

10	施設整備計画立案のための 公共施設外壁調査 《総務費 ○施設整備計画管理》 [施設課]	予算 決算	1,893 1,785	今後の施設劣化保全整備計画に役立てるため、公共施設の外壁で目視による劣化状況の判断が難しいタイル仕上げ等の建物について赤外線調査を行った。調査の結果、ほぼ健全であることが確認された。 ・調査実施施設 市民文化会館、市営住宅、小学校、図書館
11	公共施設改良保全整備 [施設課]	予算 決算	64,710 48,150	改良保全(安全・福祉・環境性能等向上整備)のうち「エレベーター地震時閉じ込め防止」「不活性ガス消火設備交換」を実施し、災害時の安全がより確保された。 ・工事実施施設 市民文化会館、吉祥寺シアター、コミセン、福祉施設、小学校
12	公共施設劣化保全整備 [施設課]	予算 決算	703,700 397,374	劣化調査の結果に基づき保全整備を実施し、施設の機能維持及び延命化を図り、計画保全による突発的な事故の抑制につながった。 ・工事実施施設 市民文化会館、市庁舎、福祉施設、保育園、市営住宅、小学校、中学校、調理場

(5) 社会の変化に対応していく行財政運営

13	財政援助出資団体のあり方の検討 《総務費 ○企画調整》 [企画調整課]	予算 決算	5,000 4,883	市の行政活動を補完する財政援助出資団体について、公共サービス提供主体の多様化などの社会状況を踏まえた上で、経営状況や果たすべき役割を精査し、今後のあり方を検討した。第三者機関による調査及び在り方に関する検討報告書を作成した。結果、財政援助出資団体の現状の把握と課題の整理に繋がった。
14	住民情報系システム再構築 《総務費 ○住民情報系システム》 [情報管理課]	予算 決算	120,000 114,017	住民記録・税・国保等の住民情報系システムについて、業務やシステムの最適化を図るため、統合パッケージによる再構築を実施した。26年1月のシステム稼働に向けて、プロポーザルによる事業者選定、開発協議による仕様の確定、インフラ基本設計、移行データ検証等の作業を行った。

(6) チャレンジする組織風土の醸成と柔軟な組織運営

15	市民雇用創出事業 《総務費 ○市民雇用創出事業》 [人事課]	予算 決算	686,094 660,566	市の業務を見直し、ワークシェアリングと求職者の生活支援を目的に市民の雇用を創出するという観点から嘱託職員の任用を行った。職員の定数適正化計画の実施とあわせ、庁内各課との調整を行い、中高年齢者及び障がい者を対象として、平成25年3月1日現在で35課51業務211人の嘱託職員を任用した(教育委員会含む)。また、平成25年3月1日現在、本市独自の緊急雇用対策として、10課10業務14人の嘱託職員を任用した。
----	--	----------	--------------------	--

Ⅱ 平成 24 年度基金の運用状況を示す書類

地方自治法第 241 条第 5 項の規定に基づき、平成 24 年度の基金の運用状況を報告します。

武蔵野市長 邑上守正

1 平成24年度国民健康保険高額療養費貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未払金	計 (運用金)
5,000,000	0	0	5,000,000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月別	収入額		支出額		差引残額
	収入額	累計	支出額	累計	
前年度繰越額		5,000,000		0	5,000,000
4	0	5,000,000	0	0	5,000,000
5	0	5,000,000	0	0	5,000,000
6	0	5,000,000	0	0	5,000,000
7	0	5,000,000	0	0	5,000,000
8	0	5,000,000	0	0	5,000,000
9	0	5,000,000	0	0	5,000,000
10	0	5,000,000	0	0	5,000,000
11	0	5,000,000	0	0	5,000,000
12	0	5,000,000	0	0	5,000,000
1	0	5,000,000	0	0	5,000,000
2	0	5,000,000	0	0	5,000,000
3	0	5,000,000	0	0	5,000,000
計	0		0		

イ 利子収入の状況

(単位：円)

上半期預金利子	498
下半期預金利子	498
計	996

(注) 上記の利子収入は、一般会計(15財、1財、2利、1利)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
0	0	0

(3) 運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	5,000,000
貸付未収金	0
未 払 金	0
計 (運用金)	5,000,000

2 平成24年度国民健康保険出産費資金貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未払金	計 (運用金)
5,000,000	0	0	5,000,000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月別	収入額		支出額		差引残額
	収入額	累計	支出額	累計	
前年度繰越額		5,000,000		0	5,000,000
4	0	5,000,000	0	0	5,000,000
5	0	5,000,000	0	0	5,000,000
6	0	5,000,000	0	0	5,000,000
7	0	5,000,000	0	0	5,000,000
8	0	5,000,000	0	0	5,000,000
9	0	5,000,000	0	0	5,000,000
10	0	5,000,000	0	0	5,000,000
11	0	5,000,000	0	0	5,000,000
12	0	5,000,000	0	0	5,000,000
1	0	5,000,000	0	0	5,000,000
2	0	5,000,000	0	0	5,000,000
3	0	5,000,000	0	0	5,000,000
計	0		0		

イ 利子収入の状況

(単位：円)

上半期預金利子	498
下半期預金利子	498
計	996

(注) 上記の利子収入は、一般会計(15財、1財、2利、1利)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
0	0	0

(3) 運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	5,000,000
貸付未収金	0
未 払 金	0
計 (運用金)	5,000,000

3 平成24年度高額介護等サービス費貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未払金	計 (運用金)
5,000,000	0	0	5,000,000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月別	収入額		支出額		差引残額
	収入額	累計	支出額	累計	
前年度繰越額		5,000,000		0	5,000,000
4	0	5,000,000	0	0	5,000,000
5	0	5,000,000	0	0	5,000,000
6	0	5,000,000	0	0	5,000,000
7	0	5,000,000	0	0	5,000,000
8	0	5,000,000	0	0	5,000,000
9	0	5,000,000	0	0	5,000,000
10	0	5,000,000	0	0	5,000,000
11	0	5,000,000	0	0	5,000,000
12	0	5,000,000	0	0	5,000,000
1	0	5,000,000	0	0	5,000,000
2	0	5,000,000	0	0	5,000,000
3	0	5,000,000	0	0	5,000,000
計	0		0		

イ 利子収入の状況

(単位：円)

上半期預金利子	498
下半期預金利子	498
計	996

(注) 上記の利子収入は、一般会計(15財、1財、2利、1利)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
0	0	0

(3) 運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	5,000,000
貸付未収金	0
未 払 金	0
計 (運用金)	5,000,000